

鎌倉市教育委員会 令和6年8月臨時会会議録

○日時 令和6年（2024年）8月9日（金）
9時30分開会 15時50分閉会

○場所 鎌倉生涯学習センター ホール

○出席委員 高橋教育長、下平委員、朝比奈委員、長尾委員、林委員

○傍聴者 51人

○本日審議を行った案件

日程1 協議事項

令和7年度（2025年度）使用中学校教科用図書の選定について

日程2 議案第14号

令和7年度（2025年度）使用小学校及び中学校教科用図書の採択について

日程3 協議事項

教育委員会事務局職員への兼務発令について

高橋教育長

それでは定足数に達したので委員会は成立した。これより開会する。本日の議事録署名委員は下平委員に依頼する。本日の議事日程は手元に配布した通りである。なお、日程3「協議事項 教育委員会事務局職員への兼務発令について」は人事案件のため、地方教育行政組織及び運営にかかる法律第14条第7項の規定により非公開としたいと思うが異議はあるか。

（異議なし）

高橋教育長

異議なしと認め日程3は非公開とする。また、本日南海トラフ地震に係る巨大地震注意報が発令されている。もしものときには自身の身を守る行動をとり、係員の指示に従って避難をしてもらいたい。

本日は令和7年度（2025年度）使用教科用図書の採択についての審議を行う。なお、中学校使用教科用図書については文部科学省令和7年度（2025年度）使用教科書の採択事務処理についての通知により、全ての教科書について新たに採択を行うことができるとされていることから、初めに協議事項として種目ごとに選定について協議を行う。その結果を踏まえ議案第14号において採択について審議する。それでは日程に従い議事を進める。

1 協議事項 令和7年度（2025年度）使用中学校教科用図書の選定について

高橋教育長

日程1、協議事項「令和7年度（2025年度）使用中学校教科用図書の選定について」を議題とする。
事務局から説明を願いたい。

教育指導課長

協議事項「令和7年度（2025年度）使用中学校教科用図書の選定について」説明する。議案集は1ページを参照願いたい。令和7年度（2025年度）使用中学校教科用図書の採択にあたり、検討委員会から報告のあった令和7年度（2025年度）使用教科用図書調査研究報告書をもとに教科用図書の選定について協議を願いたい。それに先立ち、この報告書作成までの経過について説明する。本年4月の教育委員会で、令和7年度（2025年度）使用教科用図書の採択方針について議決を受け、その採択方針に基づき、鎌倉市教科用図書採択検討委員会を5月に設置した。第1回検討委員会を5月14日に開催し、教育委員会が採択をするにあたって、参考となる資料を作成することを教育長から検討委員会に依頼した。検討委員会では、報告書を作成するにあたり、種目ごとに調査員を置き、依頼内容に基づき、調査員に教科用図書見本の調査研究の指示をした。調査委員会は第1回を5月21日に開催し調査活動に入った。さらに6月11日と26日の計3回開催し、調査資料を作成した。この調査資料をもとに、検討委員会を7月10日と22日に開催し、内容の検討に入るとともに、総合評価について協議し、検討結果として報告書をまとめた。7月31日に鎌倉市教科用図書採択検討委員会委員長から報告を受け、教育委員へ届けた次第である。以上が経過である。続いて報告書について説明する。手元の令和7年度（2025年度）使用教科用図書調査研究報告書の1ページを参照願いたい。左上に種目が示されている。また、表については左の項目から発行者番号、発行者略称、書名、検討結果、総合評価となっており発行者番号、発行者略称、書名は文部科学省から送付された中学校用教科書目録に示されたものになる。検討委員会で協議した内容を発行者ごとに、その特徴を記述したものを総合評価に記述し、検討結果に鎌倉の生徒にふさわしいと検討委員会で判断した教科書を一重丸、鎌倉の生徒によりふさわしいと検討委員会で判断した教科書を二重丸としている。この形式で16種目の教科書について報告がされている。以上で報告書の作成結果と報告書についての説明を終わる。本日は小学校用および中学校用の教科書の採択を行うが、このあと中学校用教科用図書について、一種目ずつ協議を行い、鎌倉の生徒にとって最もふさわしいものを選定してもらいたい。なお、種目ごとの担当指導主事から、協議の冒頭に報告書の説明をする。また、協議における詳細内容の質疑等についても発言をすることを了承願いたい。

高橋教育長

協議に先立ち、協議の進め方について語りたいと思う。検討委員会から報告された報告書に記載されている16種目について、まず種目ごとに担当指導主事から説明を受け、続いて報告書にある検討結果や総合評価を踏まえ、どの教科用図書が鎌倉の子どもたちにとってふさわしいかの意見を出し合い、1種目ごとに協議を進め、最終的にこの教育委員会の全員一致の意見で採択候補を1つに絞っていくこととしたい。今日の採択の議論に向けて、全体を貫く5つの視座について話したいと思う。1点目として

は、当然のことであるが、特定の意見に酌みすることなく、この独立行政委員会である教育委員会がレイマンコントロールの主旨のもとに、公平、中立、公正に判断をしていく。不偏不党ということだと思っている。また、あくまで鎌倉の子どもたちにとってどの教科書が良いかという視点で選びたいと思う。2点目であるが、今回の教科用図書の採択については、現行の指導要領で2回目の採択となる。従って、現在採択している教科書会社の教科書が1つ基礎になると思っている。一方で、同じ教科書会社の教科書でも色々変化している部分もあるので、そういった点にも留意する必要がある。3点目であるが、検討委員会において専門的な見地から様々な検討を進めてもらったので、このプロセスを重視したいと思う。学校現場から寄せられた使用感や、あるいはこのような学びを進めたいという声を重視していきたい。各委員とも既に教科書をかなり読み込んで勉強してもらっていることを前提に、疑問に思うことや内容について深めたいことがあれば、担当の指導主事に、質問、意見をしてもらえれば良いと思っている。4点目であるが、今、鎌倉市では次年度に向けた教育大綱というビジョンの議論を進めている。その中でも、「学習者中心の学び」や、「炭火」というキーワードを通して、子どもたちが生涯に渡って主体的に学び続けるというような視点を方向付けようとしている。そういった視点をこの採択の中でも大事にしていきたいと思っている。我々は教育者側の視点に立ってしまいがちであるが、あくまで学習者中心という視点も大事にしていく。最後、5点目であるが、前回の採択と大きく異なる点としてGIGAスクール構想がある。1人1台の端末が一気に整備されたことで、各学校でもICT端末を使った授業や学びを展開している。今回の教科書採択の事前の勉強会において議論した中でも話題に上がったが、デジタルコンテンツの充実のパワフルさはすごいものがあると感じている。動画で視覚的・聴覚的な部分を補えるようになり、シミュレーション、マップ、フラッシュカード等、様々なコンテンツが教科書から端末を通じて飛べるようになっている。いわば総合的な教材化を教科書が行っていると言え、この点も1人1台端末時代の教科書採択という意味では重視しないといけない視点であると思っている。この5点の視座を踏まえて、ぜひ教育委員には忌憚ない意見を出してもらいたい。

種目の協議順だが、前回と同様に特別の教科道徳について先に協議を行い、以降は報告書に記載の順で進めて行こうと思う。ここまでの協議の進め方や順番について教育委員から何か質問、意見等あるか。

(質問・意見)

特になし

高橋教育長

それでは、道徳から始め、以降は報告書に記載の順番に協議を行う。道徳について担当指導主事から報告書の説明を願いたい。

道徳担当指導主事

道徳について説明する。資料を参照願いたい。検討委員会で7社の教科書見本本を検証した結果、東京書籍、光村図書、学研の3社が特に鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また、3社の中でも特に東京書籍への意見が多く、検討委員会として1番目の推薦とした。まず東京書籍について説明する。クラスで対話を促したり、内容への理解を深めたり等、視野を広げられるように工夫されており、

協働的な学びに活用しやすくなっている。心情円が巻末とデジタル教材としても付いている等、補助教材が充実しており、自分の気持ちを伝えやすくする工夫が見られる。続いて光村図書について説明する。「道徳で学ぶ22のキーワード」が学びのイメージを持ちやすくなる様にイラストで示されていたり、「道徳 道案内」というページでは学びに見通しが持てるようになっていたりと生徒の学びをアシストする工夫がされている。最後に学研について説明する。「道徳科で学ぶこと、考えること」では道徳の考え方、学び方が明確に示されていたり、「様々なテーマを学ぼう」では見やすいイラストで示されていたりと生徒のやる気を引き起こす工夫がされている。

(質問・意見)

下平委員

どの出版社も自分自身、人間関係、社会や自然とのかかわりについて非常に大切なことを感じて、そして考えて学び取れる様に工夫されており、とても充実した内容であったと思う。私共も採択に先駆けて全社の教科書を読み、更に意見交換の場も持ったことにより、徳が高まったのではないかと感じている。結論から言うと、現在も実際に中学校で活用されている東京書籍を選びたいと個人的に思っている。その他の教科書もどれも工夫があり大変魅力的な内容であった。教育出版、光村図書、学研等の教科書はサブタイトルがついているのだが、それぞれ「とびだそう未来へ」、「きみがいちばんひかるとき」、「明日への扉」等、何か未来に希望が開かれていくようなサブタイトルも大変魅力的であると感じていた。先程指導主事からの話にもあったが、光村図書は昨年度少し様子が変わったと感じたのだが、読み物がわりと短めに工夫されていて、それぞれ読み解くポイントが明確に捉えられる様に工夫されていた。また、「22のキーワード」については、非常にポイントが絞りやすく工夫されていたと思う。教育出版は非常に内容がバラエティに富んでいて、様々な人々の体験や手記等が取り上げられており、本当に充実した内容になっていた。また、学研は毎回巻頭に非常に印象的な詩が取り上げられており、また、ビジュアルな面に心惹かれるものが多数取り上げられており大変魅力的であった。教育図書も、SNSに対する依存度チェックなど、中学生には非常に重要であると思われるポイントが掲載されていた。そして、日本文教出版は道徳ノートが非常に充実していて、これを活用できたら振り返りも非常に充実したものになると感じた。日本文教出版の2年生の教科書に「リスペクトアザース」という文章が掲載されており、これは教科書の中にはないのだが、第32回の全国中学校の人権作文コンテストで、鎌倉市の生徒が書いたものが掲載されている。これは非常にありがたく、貴重な内容であると感じた。日本教科書も「ウェルビーイングカード」等が掲載されていて、これも非常に有効活用出来そうな内容だと思った。

今申し上げたように、それぞれの教科書会社に色々な工夫があって素晴らしいと感じるところが多々あった。東京書籍に関しては、現在も活用されていることもあるが、道徳において非常に重要なポイントである、自分自身を知ることや、人との関わり、集団社会との関わり、自然や崇高なものとの関わりということに関して、きちんと生徒にも分かりやすくなっており、ここではどの部分をしっかりと学びとるかが示されており、教員や学ぶ生徒たちにとってここで何を感じ、考えて学びとっていくかが分かりやすく整理されている。そして指導主事の話にもあったが、「Plus」、「振り返ろう」のコーナーでは、さらにこの単元で感じとること、学びとることの重要なポイントがまとめられるように作られ

ている。そして毎回教員から、心情円が非常に使いやすく活用している、という現場の声を聞いているので、全学年において心情円が使われていることもポイントであると思う。他の教科書でも取り上げていることがあったが、なかに安藤百福氏のカップ麺の話が出てくる。ラーメン博物館が横浜にあり、鎌倉の生徒にも身近な内容になっているのではないのかと思った。

繰り返しになるが、各社とも大変魅力的ではあった。しかしながら、現在も活用している東京書籍を推したいと思っている。他の委員の意見も伺いたいと思う。

長尾委員

私も東京書籍を推したいと考えている。この教科は専任の担当教科よりも、担任の2人の教員が取り扱うこともあり、誰でも教えやすいということもポイントであると思っている。各社とも、様々素敵な題材を取り扱っており、そこに差異はないと思っている。しかし、東京書籍はレイアウトも非常に見やすく、一目見たときにイメージを湧かしやすいような工夫にも長けていると感じた。総合評価の方で丸がなかったのだが、日本文教出版のノートの別冊は非常に使いやすいと思ったが、道徳こそこういった個人のノートよりも、クラウドの世界でクラスの中で共有していく方向性に今後なっていくのだろうとも思う。そのため、日本文教出版よりも東京書籍を推したいと感じた。また、学校調査表において、学校の教員からの意見も東京書籍の方が高かったことも理由である。

朝比奈委員

どの教科書会社も大変見やすく工夫されていて、私が子どものときに科学でよく使った学研は、やはりビジュアルの美しさ、分かりやすさが際立っていた。綺麗な写真やイラストを用いて、どの教科書にもかつての私の抱いていた学研のイメージがそのまま残っていて好ましいと感じている。また、光村図書は、流石というべきか、国語の教科書的なフォントの見やすさがある。しかしながら、東京書籍のデジタル図書との連携が他者よりも優れていると感じられ、開いたときの左側の「考えよう」、「見つめよう」等のところも含め、これは使う生徒だけではなく、指導する教員も、使いやすいのではないかと考え、東京書籍を推したいと思う。

林委員

各社ともとても良い教材を選んでいると思う。特にいくつかの会社では、「裏庭での出来事」、「最後の二行」、「二通の手紙」、「美しい母の顔」等の題材に心打たれ、これを用いて生徒と教員が色々と考えてほしいと強く思った。学びの中で見方を変えるということが道徳の中では大事であるところ、光村図書では、題材の後に必ず「見方を変えて」という声かけがある。いじめについての内容でも、一人一人が自分の考えでなく、見方を変えることで相手は何を考えているか、何を思っているかが分かるということが示されており、光村図書に非常に惹かれたところである。日本文教出版の題材のコメントに作者の「あすへのメッセージ」が必ず付いていて、そのメッセージを読み深めることによって、教科書の内容がもっと子どもの心の中に入って行くのだろうと思い、良いところだと感じた。しかしながら、他の教育委員と同様に東京書籍を推したいと思っている。例えば最初の目次を開いた時に、教材の一覧が非常に分かりやすく並んでおり、生徒にとっても教員にとっても、こう言うことを学ぶのだと理解しやすくなっている。また、「見方を変えて」、「視点を変えて」等、プラスアルファの内容が1つの大事な話

になっており、非常に秀逸だと感じた。後ろにある「自分の学びをふり返ろう」というピンクのカードも、ワークシートのような形で全ての題材にこれがあると窮屈なのだが、わりと少なく、自分たちで道德ノートを作って、色々考えていくという授業も出来るのではないかと感じた。以上の理由から、東京書籍を推薦したいと思う。

下平委員

追加の意見である。今SNSの問題が色々騒がれているが、東京書籍の2年生の教科書では、SNSの大きな問題と言われるフィルターバブル現象や、エコーチェンバー現象等を取り上げながら、なぜSNSで問題が起こりやすいのかが取り上げられており、ここも魅力的だと思ったポイントであった。

高橋教育長

それでは議論を取りまとめたいと思う。検討委員会から推された東京書籍、光村図書、学研については、どれも鎌倉の子どもたちにふさわしい教科書かと思った。そのうえで各教育委員から東京書籍を推す声が大きかったところである。光村図書についても、林委員の指摘のとおり、「見方を変えて」という視点で、まさにこういうことをやりたいのだという意思を感じる部分はすごく良いと思った。もとより道德という特別な教科は、答えが1つではないという問いについて、子どもたち自身が自分事として考えて向き合えるようにするという考えから始まったものである。その精神は指導要領に掲げられているところも含め、我々は重要視しないといけなと思っています。その点については光村図書や学研からも非常に感じられた。一方で東京書籍は、対話、議論を促すような工夫があり、また、SNSを始め子どもたちの身近な課題から問いが始まって抽象化されていくプロセスについて、非常に分かりやすい展開がされている。コンテンツ的にもP4Cや、哲学対話の方法論について等、まさに道德という特別な教科の精神性を体現した教材になっており、デジタルコンテンツ等を含めて、総合的に優れた内容であると思っている。従って、道德については東京書籍を選定したいと思うがいかがか。

(異議なし)

高橋教育長

それでは道德は東京書籍を選定する。次に、国語について担当指導主事より報告書の説明を願いたい。

国語担当指導主事

国語について説明する。資料を参照願いたい。検討委員会で4社の教科書見本本を検討した結果、東京書籍、三省堂、光村図書の3社が特に鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また3社の中でも特に東京書籍への意見が多く、検討委員会として1番目の推薦とした。まず東京書籍について説明する。各単元に設けられている「言葉の力」で、国語の見方、考え方が示されており、学ぶ内容が明確化されているため、見通しや振り返りにも有効である。また、巻末に「言葉の力」一覧が掲載されており、3年間での系統的な学びが行えるように配慮されている。二次元コードなどの資料が充実しており、作者の紹介や語彙力を高める教材、文法教材等、基礎的なものから発展的な内容までおさめられて

いる。また、音読教材が個別に調整可能であったり、視覚的な補助があったりと、学習支援の充実が図られている。次に三省堂について説明する。「読み方を学ぼう」、「教材」、「学びの道しるべ」、「学習を広げる」の流れで学習活動が構成されており、基礎の学習、練習、発展と段階的に学ぶことが出来るように工夫されている。最後に、光村図書について説明する。「学びへの扉」で学習の目標や流れが明確にされており、「学びのカギ」で学習のポイントや他の単元とのつながりが分かりやすく示されていることから、身につけたい資質能力を意識して学ぶことが出来るようになっている。

林委員

各社ともデジタルコンテンツが充実しており、採択のたびに進化していると実感している。各社とも各領域の資質能力の手助けをするための工夫として、例えば「学びの道しるべ」、「手引き」、「道しるべ」、「学びのカギ」等、学習活動の一連の流れが非常に明確になっている。学習者中心という点が意識されており、本当にどの会社も秀逸だと感じている。また、SDGsにつなげていくことも各社意識していることがわかり、国語の教科書、国語の勉強が、その勉強だけで終わらないという、未来の社会へ向けての学びにもつながっているという意図が感じられる作りになっている。これは個人的な話であるが、私が教員時代に扱っていた「朝のリレー」や「いのちは」等の詩を扱っている会社が数社あり、非常に感動した。その中で、検討委員会からの推薦がないが、教育出版は非常に秀逸な教材が多いと感じた。例えば坂本龍一氏、国枝慎吾氏等、活躍された方、されている方のコラムが非常に多くあった。また、教材に入る前に見開きで、プレの勉強が出来る様な教材を入れていることも学びには非常に良かったと思っている。検討委員会から推薦があった3社も、そのような内容を取り入れて作られてきたのかと思う。三省堂は、「思考の工房」というページがあり、そこに「問うことから始めよう」と9種類の問いが書いてある。これは授業に使えると思っており、三省堂の教科書は、これからの子どもたちの様々な性格や生き方等を考えながら作られていると感じた。東京書籍は、「未来への扉」というカラーの端的に書かれていた折り込みがそのまま学習の見通しとして使えるものであった。教科書が非常に厚いが、やはり子どもたちには、まずどんな学びをしたいかをシンプルに見通せることが大事であり、これをやるのだなということが端的に表れている一覧がある。これは勉強に取り組む安心感につながり、非常に良いと思った。また、二次元コードが充実しており、他の会社のQRコードであると読みの手本が入っていることが多いが、東京書籍は、例えば竹取物語については物語の説明がある。読む前に全体の説明があることによって、読みの印象もまた変わるので、非常に細かいところまで考えてQRコードが作られていると感じた。光村図書は、国語では主流のところであり、巻末の語彙ブックから指導編まで、学んだことが視覚的にはっきりと後に残るところが秀逸だと思う。また、「学習の見通しを持とう」というページがコンパクトに見開きでまとまっている。他の会社にも同様のページはあるが、ページをめくらないと最後まで見られず、非常に些細なところであるが、これも光村図書の良い点であると思う。後は、タブの図を使って今何を勉強しているのかが要所要所に入っており、現代の子どもたちの使っている物に合わせて作っているということを感じた。結論としては、東京書籍のデジタルコンテンツの扱い方や視覚的に学びを捉えられる工夫が素晴らしいことから、今回は東京書籍を推したいと思う。

長尾委員

私も東京書籍を推したいと思っているが、その理由の1番大きな点はやはりQRコードの使い方が非常

に上手なことである。基礎から発展まで、展開の仕方が学習者中心の視点を意識していると思っている。1点質問なのだが、このようなQRコードを現場で使いこなせるのかが気になるところである。現場の教員はどういった状況なのか、現状使っているのかを含めて聞かせていただければと思う。

国語担当指導主事

現場の教員たちの中にも差があるというのが実情である。国語は、まずは文章にしっかり目を向けるという目的もあるので、デジタルコンテンツではなくて言葉をしっかりと読ませたいという考え方を持っている教員もいる。その中で、QRコードによりデジタルコンテンツを利用し、子どもたちがより分かりやすい授業を目指しているという教員もいて、幅広い授業が展開されているのではないかなと思う。

長尾委員

このようなQRコードを使いながら、色々な個性を持っている子どもたちに深く学んでももらいたいという方針であると思うので、東京書籍を推したいと思う。

朝比奈委員

私が記憶している昔の国語の教科書はこれほど大きくなく、厚さがあって本当に色々な作品がたくさん読めるような印象しかないが、各社の工夫により、今はこれだけバラエティに富んだ教科書があり、QRコードとの連携やいわゆる学習者中心のポイント等もそれぞれ抑えられている。いつも感じる光村図書の重厚な雰囲気も昔の感じが残っており、光村図書も捨てがたいのだが、私も東京書籍を推したいと思う。やはり、QRコードの連携等のデジタルの部分が素晴らしく、表紙も大変明るく鎌倉の子どもたちに読んでももらいたい教科書だと感じている。

下平委員

私も各社繰り返し読み比べたが、最終的に光村図書と東京書籍で現在も迷っている。現行使っているのが光村図書であり、表紙をはじめ中の紙の質感などが独特で非常に上質な印象を与えることが魅力だと思う。また、途中で挟みこまれている語彙ブックは、教科書よりも一回り小さく切り取れるようになっており、これは本当に素晴らしい内容であった。語彙力が貧困化する世の中なので、これはぜひ活用してほしいと思った。光村図書が今回工夫したのではないかなと思う点が、生徒たちが親しみやすいように、重要なポイント、学びの扉などのポイントが横書きになっているところである。その点も含め光村図書が魅力的だと感じた。教育出版は、評論がどれも考えさせる内容であり、読み応えがあった。三省堂は、各学年とも、例えば緑黄色社会やOfficial髭男dismやYOASOBIの歌詞が取り上げられており、今の生徒たちに親しみやすい音楽を歌詞として味わうという捉え方が非常に新鮮であり、生徒たちの興味を惹くのではないかなと思ったポイントである。三省堂は「読み方を学ぼう」、「学びの道しるべ」、「学習を広げる」という三段階に渡って、非常に学びが進めやすい構成になっているというのも魅力的だと感じた。東京書籍は、それは章の最後の「言葉の力」も良いが、巻末の「言葉の力一覧」が、非常に良くまとめられており、これも充実した内容だと感じた。2年生の140ページに那須与一の話が、また、3年生の138ページに「奥の細道」が取り上げられているが、他の会社と異なり特に義経の最後ということと結びつけている。鎌倉の生徒たちにとっては歴史への想いが深められるように進められるのではな

いかと思ったポイントである。各社とも魅力がある中で、東京書籍と光村図書で今も迷っている。

長尾委員

1点質問がある。現在光村図書を使っているが、これを東京書籍に変更する場合については検討委員会から不安の声等はあるか。

国語担当指導主事

教科書会社を変更することについての不安の声は特に出ていなかった。

高橋教育長

教育委員からは東京書籍や光村図書を推す声があった。光村図書については、語彙ブック、学びの扉、その他の各コンテンツについて、子どもたちが学びに入っていけるような教材の選び方がされていると下平委員から話があった。このような点は私も強みとして感じた。また、林委員からの話にあった、全体の見通しを持って学習を定着させて行く点も強みであると感じた。そのうえで、現在光村図書を使っている状況であるが、東京書籍を推す声が大きかったと思う。東京書籍は、担当指導主事からも説明のあった「言葉の力」というコンテンツにおいて、国語の見方や考え方について、教科書を使いながら見通しや振り返りをしていく点が非常に工夫されていると感じた。もとより、国語という教科が言語能力の育成のために要になる教科であり、様々な学習の基盤となる資質能力を育む教科であると思っている。その中で、巻末の「言葉の力一覧」が非常に良くまとめられており、また、デジタルコンテンツを使いながら学力の定着を図り深い学びに入っていけるような仕組みがあり、様々な作者の紹介や練習問題等も充実していると感じた。これらのコンテンツの使い方については、指導主事も答えている通り、この教科書で教員が教えるという視点も大事である一方、この学びを更に進めたい、深めたい、あるいは逆に理解し難いので動画を使って理解してみたいといった学習者である子どもたちの視点を意識することが大切である。個別最適な学びという視点に立ったとき、東京書籍は非常に優れたものがあると感じた次第である。従って、総合的に判断し、国語は東京書籍を選定したいと思うがいかがか。

(異議なし)

高橋教育長

それでは国語は東京書籍を選定する。次に、書写について担当指導主事より報告書の説明を願いたい。

書写担当指導主事

書写について説明する。資料を参照願いたい。検討委員会で4社の教科書見本本を検討した結果、光村図書、東京書籍、三省堂の3社が特に鎌倉の子どもたちに相応しいと判断された。また3社の中でも特に光村図書への意見書が多く、検討委員会として1番目の推薦とした。まず光村図書について説明する。「通信文を見てみよう」のコーナーではコピペをする理由やYouTuberを将来の夢に持つことを親が反対することなどを話題として取り上げており、子どもたちの興味を引く内容になっている。また書写

ブックが別冊になっており、書きやすい材質で練習しやすいように配慮されていたり、左利き用の動画が二次元コードで掲載されていたりと学ぶ上での配慮が丁寧になされている。次に東京書籍について説明する。「自分のノートを見直す」で普段使用するノートの使い方を考え直すコーナーが設けられていたり、「生活を広げよう」で実際の使用場面を想像出来るように工夫されていたりと実生活で使用することを意識して学習できるように配慮されている。最後に三省堂について説明する。二次元コードで動画の一覧がまとめて掲載されていることで、生徒がそれぞれ自分の学びたい事柄から必要な機材にアクセスできるようになっており、個別最適な学びに繋がるように工夫されている。

(質問・意見)

朝比奈委員

書写・書道について、私は立場上学ぶより慣れろという感じで筆を持って作業することが多く、毎回この書写の教科書を目の当たりにするときちゃんと学んでおくべきだったと反省する次第である。この時期は沢山お塔婆を書く等、筆を使う機会が多いが、もう少ししだいに勉強していたら効率よく書けるのではないかと思っている。4社とも優劣が付けがたいところだが、光村図書のお手本の味、豊かさ等が良いと思った。また、勿論筆のことばかりではなく、今時のYouTuberについて、新しい文字のあり方、文字の表現のあり方等について取り上げられている。私の娘は左利きであるが、特に漢字は右手で書くことが前提となっているところ、左利きの人々がどのように書いたら良いかという点もQRコードを読み込んで分かりやすくなっている。また、書写ブックが別冊になっており、これも教材としては非常に優秀だと思うので、私は光村図書を推したいと思う。

下平委員

4社の中で私も光村図書が素晴らしいと思う。繰り返し出ているが、最初にページを開くと書写ブックがついているが、これにお手本もしっかりと含まれており、非常に有効に活用できると思う。また、最後の方に漢字辞典というものもあり、中学生たちが身に付けたい漢字に関して再度確認出来るようになっている。加えて、QRコードで左利きの方々が学べるようになっていることや、書いている時の姿が横や上からも表示されていることも素晴らしいと思った。各社とも筆の運びや力の入れ具合がわかるように、オレンジ色を活用したりして工夫しているが、光村図書はこの点も使い方が非常に明確で分かりやすいと思った。最近筆を持つ機会が生徒にはあまりないかも知れないが、各社ともこれから社会に出ても活用出来るような願書、送り状、はがき、手紙等の書き方について非常に分かりやすく取り上げられており、それぞれの工夫があって良いと思った。今回検討委員会からは挙がっていなかったが、教育出版も表紙が平家物語と古今和歌集となっており非常に魅力的であると思った。東京書籍には生活に密着した工夫がされていると感じた。三省堂は88ページと89ページに楷書と行書の比較が明確になっており、これが非常に分かりやすく有効に活用してもらえないのではないかなと思う。また、資料集として77ページから重要なポイントや活用できそうなポイントが1つにまとまっていることで分かりやすい作りになっている点も良いと感じた。以上それぞれ比べた結果、光村図書が魅力的かなと思う。恐らく授業の中でも、この中に出てくるお手本に基づいて生徒たちは練習するのだと思うが、そのお手本として選ばれている言葉が、光村図書では未来に夢が広がるような言葉がたくさん並んでいる。これも選ぶきっかけ

になったポイントである。

林委員

小学校用教科書の選定のときもそうだったが、光村図書の28ページに、1年生の時、2年生の時、3年生のときと、3年間それぞれの自分の字を書けるページがあり、自分が練習してどれだけ上手になっているかが分かる工夫が良いと思った。筆順動画の速さが調整できることや、先ほど下平委員が言っていたように、書いているときの姿が横や上からも表示されたりすることは、QRコードの優れた部分であり、使いやすいと思った。また、主筆の点画の説明が非常に分かりやすく、お手本として良いと思う。12ページの「書写の木」というものも分かりやすく、やることが視覚的に明確になると感じた。これは内容と違う話になるが、光村図書は紙質がとても柔らかく、しっとりとした感じがするため、机に置いて書道するときに非常に落ち着いた雰囲気を使えると思った。三省堂は、習字の時のお手本の右下に、必ず視線や筆の持ち方といったイラストが書いてある。これらはどうしてもいい加減になりがちだが、お手本を見るとこのイラストが出て来るので、書くたび背筋が伸びるかと思う。とても良いアイデアだと感じた。東京書籍は、学年ごとの目標について、「身につける」、「使い分ける」、「使いこなす」と明確に大きく書いてあり、1年生の時から、3年生の時にこうやって使いこなせるように、今はここを学ぶのだということが見えて良いと思った。ただ、全体としては、光村図書の工夫や学年ごとの足跡を大事にする姿勢から光村図書を推薦したいと思う。

長尾委員

私も光村図書を推したいと思っている。主な理由としては、「全国フォントを見つけ隊」という、「こういう文字でものを伝えていくのだ」ということを身近に捉えられるようなページがある。子どもたちを含めて、文字離れが進み、文字への関心が低くなってしまうと危惧されている中において、このようなコーナーがあることは良いと思った。「全国文字マップ」では、どのように自分の魅力を文字の書体やデザインで伝えていくのかという観点でページが作られている。また、ユニバーサルデザインフォントについても載っており、どのような方が見やすく、どのようにすると伝えやすいか、文字からどのようにその文字を使って、今の自分の生活に生かしていくのかという点についてページを割いて作られている。この辺りを鎌倉の子どもたちに学んでもらいたいと思い、光村図書を推すこととした。

高橋教育長

国語については先程東京書籍の教科書を選出しているが、書写については光村図書を推す声が多かった。同じ国語科でこの教科書の会社が変わるということについて、現場の使用感等で困るようなことがないか担当指導主事に確認したいがいかがか。

書写担当指導主事

検討委員会では、国語や書写の教科書の担当された教員と話す機会があったが、教科書会社が異なっても問題はないということで意見は一致していた。

高橋教育長

承知した。光村図書は、長尾委員から話があったように、手書きの良さというのも非常に感じられるとともに、下平委員から話があったように、各コンテンツの魅力やユニバーサルデザインも素晴らしく、今のデジタル時代の子どもたちにとって重要な書写という視点が、非常に色濃く入った教科書かと思っている。従って、書写は光村図書を選定したいと思うがいかがか。

(異議なし)

高橋教育長

それでは書写は光村図書を選定する。次に、地理について担当指導主事より報告書の説明を願いたい。

地理担当指導主事

社会・地理的分野について説明する。検討委員会で4社の教科書の見本本を検討した結果、東京書籍、教育出版、帝国書院の3社が鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また3社のなかでも特に東京書籍への意見が多く、検討委員会として1番目の推薦となった。まず東京書籍について説明する。日本の領土や領域の問題について、国際平和の実現のために解決すべき課題がしっかりと記載されており、多面的な視点で諸課題を検討することができる。また、各章の始めには豊富な写真資料があり、生徒がその地域をイメージしやすいよう工夫されている。続いて教育出版について説明する。章ごとの「クロスロード」では、章で習ったこととSDGsの観点と関連づけることで、地球的な課題を考えた学習に踏み込むことができる。次に帝国書院について説明する。日本の諸地域の各節の始めには、地方を概観する地図があるとともに、生徒が関心を持てる地図クイズ、QRコードが用意されている。

朝比奈委員

社会の地理について、現在は帝国書院の教科書を使用している。検討委員では東京書籍が推されているということであるが、私は比較して、帝国書院が良いと考えている。地理という性格上、情報の豊かさを比べてみると、このQRコードから読み取る資料が充実していることもあり、帝国書院が良いと感じている。検討委員が強く推している東京書籍も、教育出版も良い教科書であるが、私は帝国書院を推したいと思う。

林委員

帝国書院は、巻頭10ページにわたって学習する内容についての説明が非常に丁寧にされており、課題発見解決能力の育成につながる十分な準備をして内容に入る形が良いと思っている。また、地図の中に鎌倉の八幡宮やハザードマップ等が扱われており、鎌倉の生徒たちに身近なところから学べることは非常に効果があると思う。加えて、帝国書院は、デジタルコンテンツの内容に力を入れて取り組んできたことが感じられる内容であった。資料が充実しており、質も高く、地図クイズ等の非常に面白い内容もある。子どもの興味関心を惹きながら、高めながら学ぶという点を私は評価した。各地方について学ぶときには、1ページに地図が大きく載っていて、そこにアイコンで色々な特産物や名所がコンパクトに

まとめられており、これからこの内容を深めていくことが分かる1ページが非常に印象的であった。SDGsの視点にした未来の向けての学習というところも意識されており、総合的に帝国書院が良いと感じた。教育出版は、「地理の窓」というところが充実しており、東京書籍は、地理的な見方、考え方、思考ツールの紹介に地形図を使って、丁寧に説明している。これらも捨てがたいと思った。また、検討委員会から挙がっていないが、日本文教出版の「5つの地理的な見方、考え方について」が見開きで分かりやすく、また、チェックマークで自ら学習に取り組めるという工夫もされている点も良いと感じた。

下平委員

2点質問がある。地理は地図帳との兼ね合いがあるかと思うが、地図帳は後ほど別に選定を行うこととなる。地理と地図で選定する出版社は違っても問題ないのかという点が1つである。もう1つは、現在帝国書院を使用していて、検討委員会では東京書籍が1番の推薦となっている。このことについて、特に決め手となったポイントを伺いたい。

地理担当指導主事

地図の出版社との兼ね合いについては、必ずしも一致しなければいけないという議論はなかった。もう1点、東京書籍が1番に押された理由であるが、写真資料が充実しており、また使われている写真が大きく新しいもので、生徒の興味を惹くような写真であるという点が優れていることが理由であったと認識している。

下平委員

鎌倉の子どもたちにふさわしいという観点において、地理に関しては断然帝国書院だと揺らぐことなく思った。各社とも神奈川県に関して取り上げている中で、最初の方に「地域調査をしよう」というコンテンツがあるが、東京書籍は神戸を、教育出版では名古屋を、日本文教出版では京都を取り上げている一方、帝国書院は東京の練馬区の大泉が取り上げられている。鎌倉の子どもたちにとっては、どちらかというに関東圏の方が親しみやすいのかと思う。また、帝国書院は151ページに鎌倉市の津波のハザードマップと防災情報について大きく取り上げている。加えて、鶴岡八幡宮やあじさい寺、横浜中華街やみなとみらいなどにも触れられている。地理の教科書の中では、鎌倉の子どもたちにとって行ったことや聞いたことがある親しみやすいものが多く取り上げられており、帝国書院が良いのではないか思った。帝国書院は他の社会科教材でも同様であるが、最初にどのように考えをまとめたか良いかという思考ツールが紹介されている。地理の中でもマトリックス、ベン図、ウェビング、ステップチャートなど、子どもたちが自分たちで学習し、話し合いの中でまとめていくのに活用出来る思考ツールが分かりやすく取り上げられている点も非常に魅力的だと思った。担当指導主事から話のあったとおり、東京書籍は非常に写真が大きく鮮やかで目を惹く構成になっており、また、組み立て方も非常に分かりやすいと思ったが、以上の点から私は帝国書院が好ましいと感じた。

長尾委員

非常に悩ましいと思っている。現行の帝国書院から変更するまでのポイントはどこなのだろうかと検

討する中で考えていた。東京書籍はデザイン性が優れていて、少し難しくて迷ってしまうポイントもデザインと色と写真で子どもたちに訴求した構成になっている。そういった部分の力は非常にすごいと思っているが、それが教科書を変えるまでのポイントになるかと悩んでいるところである。この場で各教育委員の話を聞きながら考えたが、帝国書院の資料の量やバランス、また、それこそハザードマップのことやQRコードについて等が素晴らしく、前回から大きくブラッシュアップされていることもあり、非常に東京書籍と迷ったが、帝国書院を推したいと思っている。

朝比奈委員

追加になるが、帝国書院は、「アクティブ地理」というコンテンツに持続可能な観光について考えようというコーナーがある。これは京都の話であったが、鎌倉に置き変えて考えてもらえると良いとも思いい、帝国書院を推したいと感じた。

高橋教育長

非常に悩ましい採択だと思いながら、各教育委員の意見を聞いていた。東京書籍と帝国書院を推す声が多かったと思う。現行使われているのは帝国書院の教科書である一方、検討委員会からは東京書籍が推されている状況である。地理で身につけさせたい力として、様々な身近な地域的な課題から社会にみられる課題を把握し、その解決に向けて構想することで社会科の見方、考え方を身に着けることがある。この点を踏まえると、東京書籍も帝国書院のどちらも鎌倉の子どもたちにふさわしい教科書であると思っている。東京書籍については、長尾委員から話があったように、非常にデザインの強さがある。東京書籍も帝国書院も、ページの真ん中に本文があり、その周りに写真等の資料が散りばめられている作りをしており、似ている部分がある一方で、デザインの強みは東京書籍にはあると感じている。一方、朝比奈委員や下平委員から話があったように、帝国書院は、QRコードを通じたデジタルコンテンツが進化して充実しており、進化した教科書で学んでいく上での学び方についての導入部分、様々な思考ツール、地図帳の使い方、地理分野の学び方、見方、考え方について重視された作りとなっている。より主体的・多様的に深い学びをしていくという点では、帝国書院の強みが光っていると感じている。また、身近な教材が取り上げられているという視点でも、鎌倉の子どもたちには、相応しい部分があると考えている。両者とも甲乙付けがたい充実ぶりをしていると思うが、私なりに各教育委員の意見を踏まえると、地理は帝国書院を選定したいと思うがいかがか。

(異議なし)

高橋教育長

それでは地理は帝国書院を選定する。

ここで一旦休憩する。再開は10分後の11時からとしたいと思う。

<休憩>

高橋教育長

それでは、会議を再開する。社会の歴史的分野について担当指導主事より報告書の説明を願いたい。

歴史担当指導主事

社会、歴史的分野について説明する。資料を参照願いたい。検討委員会で9社の教科書見本本を検討した結果、帝国書院、東京書籍、日本文教出版の3社が、特に鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また3社のなかでも、特に帝国書院への意見が多く、検討委員会として1番目の推薦とした。まず、帝国書院について説明する。32ページから始まる「鉄から見えるヤマト王政権」、238ページから始まる「護憲運動と政党内閣の成立」を始めとして、原因と結果の関係や歴史的影響を丁寧に描いており、歴史的な見方、考え方を使って探求的な学びが出来るように編集されている。各節の始まりには、大きなイラストで各時代の社会の様子を概観できるタイムトラベルにより、見つける楽しさや「なぜだろう」という疑問を生徒が抱き、主体的に問いを持てるような工夫がなされている。次に東京書籍について説明する。章の始め、探求課題、各節の探求のステップ、一単位時間の学習課題が丁寧にまとめて書かれており、生徒が学習の見通しを持ちやすく構成されているとともに、学びを支える多様なQRコンテンツが用意され、授業の導入や知識の定着に利用が出来る。最後に日本文教出版について説明する。QRコンテンツ内のイントロダクションムービーにより学習者中心で学習に取り組みやすく、同じくQRコンテンツ内のポートフォリオを活用することで学習者の変化、成長が評価しやすくなっている。確認小テストも気軽に生徒自身で学習に取り組む工夫がされている。

朝比奈委員

各社とも本当に良く出来ており、優劣つけがたいと思っている。歴史の教科書については現在東京書籍を使用しているが、検討委員会からは帝国書院が特に推されている。端的に申し上げて私も帝国書院を推したいと思う。鎌倉の子どもたちに鎌倉のことを知って貰いたいと思うので、歴史の教科書を開いたときには、やはり立場上からも、鎌倉時代にお坊さんがどういう活躍をしたか、どんな風になっているかと思って見る人が多い。実は二重丸、丸が付いている3社においてはほぼ等しくそういった点が描かれている。その中にあるのも、体裁としては帝国書院が一番落ち着いていて、全体的な工夫もされていると感じる。日本文教出版では、私の本山にあたる円覚寺舍利殿の鎌倉時代の写真が使われていて悩ましく思ったのだが、帝国書院の座禅についてのページに建長寺の知った顔が座禅のモデルとして映っている。もちろんこれが大きな根拠と言う訳ではないが、鎌倉のことを知って貰う為にも、こういった1ページも望ましいのではないかなと思う。鎌倉の文化がどういう成り立ちで発展してきたのか、鎌倉にはそういうことを続けて修行しているようなお坊さんもあり、儀式が執り行われたりするということをまず知ってもらうことが大事だと思っているので、大陸から伝わった文化がどの様に日本に発展していったかということを知ってもらう意味でも、是非帝国書院の教科書を鎌倉の子どもたちに見てもらいたいと感じている。

林委員

私も帝国書院が良いと思う。各社とも今回の教科書を見ると、小学校の学びを非常に意識しており、それを積み上げた物を発展させて中学校で学ぼうという意識があると感じた。例えば東京書籍の場合だ

と、9ページの見開きに色々な歴史上の人物の顔がイラストで載っていて、小学校で習った点を「これはどうだったのだろう」と振り返りながら、「これからここを深めて行こう」という学びの流れを追っていきえるようになっている。このページをただ「見てね」と言って終わらせることもできるが、やはり、この登場人物を紹介していくなかで、1年間の学びの道筋を作っていくというのは、歴史の教員にとっては非常に楽しみなところであると同時に、力量が問われる点ではないかと思った。東京書籍は、地理に限らず、始めのところに必ず円が書いてあり、円の中に学びの大事な部分が集約されている。歴史においても、それがとても良いと思っている。日本文教出版では、60ページに「トライ」というコンテンツがあり、小学校で学んだことも取り上げられていて学びの積み上げを感じた。教育出版は他の教科でも同じようなアプローチがあるが、ゲームやクイズ等で興味・関心を高め学んでいきえるようになっている。

歴史という教科は、どうしても教員が語ってしまう部分が多いため、知らないことを教えてもらうことも大事であるが、そこから探求に向かうという意味ではとても大事な部分であると思っている。興味関心を持たせながら知らないことは教員が語る、又はデジタルのQRコードで学ぶ形がこれからの社会という教科では必要であると思う。先進的にQRコードを使う等、デジタルを活用することと、昔ながらに歴史を語り、話の内容で子どもの興味関心を高めるという二本立てで現場が進んでいるかと思っている。その2つの方向を大事にしながら、そこに共通点を見出して、子どもにとって良い点を見つけるという意味では、今回の帝国書院を始めとした歴史の教科書において、小学校の学びを積み上げるという方向はとても良いと思った。その中でも、帝国書院は学習課題が常に提示されていて、それについて学んでいく形式となっている。これにより脱線せず、最終的には学習課題に戻るという流れを教科書の中で作っている点が良いと思い、帝国書院を推したいと思う。

長尾委員

子どもたちが学ぶにあたり、東京書籍が非常に学びやすい教科書だと感じた。どの教科書も年表があり、今どの時代について学んでいるかが分かるようになっているが、その観点を含め、見た目の工夫は東京書籍が1番良いと思っている。苦手な教科を持っている子どもが多々いる中で、このような工夫によって少し取りつきやすい印象となり良いと思っている。しかしながら、教科書選定においては、先ほど指導主事からも話があったとおり、歴史的な見解と考え方を探求的に学ぶ意味で帝国書院は非常に優れていると思った。各章に学んだあと、「自分の言葉で説明しよう」という見出しがあり、アウトプットを促す仕組みがある。歴史という教科ではアウトプットを行えていないケースもあったのではないかとと思うが、このようなところから、子どもたちが学んだことを自分の見解を踏まえて、探求していくという姿がイメージできる。以上の理由から、鎌倉の子どもたちには是非帝国書院の教科書で学んでもらいたいと思う。

下平委員

歴史の教科書出版社は9社もあり、非常に充実していて大変勉強させてもらった。私も朝比奈委員と同じく鎌倉幕府関係のところを最初に読んでいるが、鎌倉幕府の衰え、滅亡、崩壊等と、出版社によって表現の仕方が異なることが非常に興味深かった。最終的には、私は帝国書院と教育出版で非常に迷った。どちらも鎌倉の子どもたちに興味深い内容が多く取り上げられており、そのページ数が非常に多か

ったと思っている。その他にも、例えば自由社は人物のクローズアップコラボ等がどれも非常に印象的である。令和書籍は鎌倉時代のことを丁寧に引きあげて、「ささりんどう」の表記があり、日本美術図巻なども興味を引き、非常に印象に残った。また、開港直後の横浜のことや横浜の歴史の新聞が取りあげられている。神話に見る日本の誕生等も非常に興味深く読むことができた。山川出版社は、巻頭の日本の世界遺産のところが写真入りで取り上げられていて、これも非常に興味を引かれる入口だと思った。教育出版は丸がついていないが、「現地に行ってみよう」というコーナーがあり、90ページと91ページに鎌倉の大仏が取りあげられている。「中世の要塞都市を歩こう」というコーナーでは、鎌倉の地図がかなり詳しく載っており、若宮大路、鶴岡八幡宮、円覚寺等も取り上げられている。鎌倉の子どもたちがこの教科書を実際に使いながら調べて歩くことで、非常に有効に活用できるのではないかと考えた。教育出版は、それぞれの章のタイトルの付け方が非常に斬新であり、興味をそそる内容になっている。例えば「シルクロードへと繋がる道」とか「木棺と敬弔は語る」等、非常に含蓄のあるタイトルがあり、ここで何が学べるのかと興味を引くような作りになっていた。また、「歴史ゲームを作ってみよう」というコーナーがあり、どれも非常に楽しいものであった。私自身も結構ハマってしまったのだが、人物プラスクロスワードでは、小学校の時に学んだ歴史上の人物が全部このクロスワードで書けるというところが非常に面白く頑張った。帝国書院は、鎌倉幕府のことが非常に丁寧に引きあげられていて、大仏は勿論であるが円覚寺のことも載っていた。「世界に開かれた港横浜」というページでは、明治時代の横浜の様子なども詳しく書かれていた。また、各社とも原爆のことを取り上げているのだが、広島県の地図、写真などを取り上げている出版社が多い中で、帝国書院は中学生に年近い13歳の少女が書いた日記が綴られていて、そしてその少女をずっと手当てしていた看護師の書簡も書かれていた。そういう視点から悲惨さを学び取れるようになっている工夫も素晴らしい表現の仕方だと思った。各章のページでは非常に分かりやすいイラストがあり、それを見て生徒たちがその時代の生活、様子をありとあらゆる視点から考えたり話し合ったりできるようになっている。これは非常に効果的に授業の中で活用できるのではないかと考えた。以上のような観点から、各社とも非常に魅力的な教科書ではあるのだが、帝国書院と教育出版のどちらかを推したいと思っている。

林委員

学び舎の教科書は表題が大きい字で書いてあり、これが目に入ったときに、この内容読んでみたいと思った。非常に表題の出し方が上手で、読み始めの印象が良いと感じた教科書であった。

高橋教育長

各教育委員とも、多様な視点からの意見を出してもらい感謝する。私も東京書籍と帝国書院については鎌倉の子どもたちに対して特に相応しい教科書であると思っている。現行は東京書籍の教科書を使っているが、検討委員会、この場ともに帝国書院についての意見が大きいと受け止めている。歴史は、今の子どもたちが生きる時代とこれまでの時代の繋がりに着目し、多面、多局、多角的に考えて考察したり、複数の立場や意見を対話することを通じて思考力や判断力について身に付けることができる非常に重要な教科である。東京書籍と帝国書院の教科書は、そのような探求的な学びや学習者中心の視点という観点で非常に多くの優れた物が見受けられる教科書だと感じている。そのうえで、下平委員から話が合ったように、帝国書院は、単元のポートに大きな絵を表示し、様々な気づきなどで対話を促すような

視覚に訴える仕組みや、鎌倉についての取り上げ方、担当指導主事から話が合った結果の関係性、歴史的影響、あるいは歴史の見方、考え方等を使って学んでいける工夫がこらされていると思っている。歴史と自分の生きるこの世界の繋がりやこれから自分たちが生きていく日本や世界のあり方という点について、探求的にあるいは対話的に学習に取り組んでいけるような教科書であると思う。より良い社会、実現に向けて参画意識を高められる工夫がよりなされていることから、歴史的分野は帝国書院を選定したいと思うがいかがか。

(異議なし)

高橋教育長

それでは歴史的分野は帝国書院を選定する。次に、社会の公民的分野について担当指導主事より報告書の説明を願いたい。

公民担当指導主事

社会、公民的分野について説明する。資料を参照願いたい。検討委員会で6社の教科書見本を検討した結果、東京書籍、教育出版、帝国書院の3社が特に鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また3社の中でも特に東京書籍への意見が多く、検討委員会として1番目の推薦とした。まず東京書籍について説明する。各節に「探求のステップ」が設定されているため、節を通しての学びができるように工夫がされていて、生徒が自らの学習課題を設定しやすくなっており、学習者中心の学びが実現しやすくなっている。各章に設けられた「みんなでチャレンジ」では授業内で生徒同士が対話的に学びを深められるように工夫がみられ、主体的で対話的な深い学びを促す。続いて教育出版について説明する。各章のまとめの部分でSDGsとの結びつきに付いて確認できる内容が多くあり、公民的課題をより身近な存在として捉えられるように工夫されている。続いて帝国書院について説明する。巻頭9ページにおいて、対話活動で使用する思考ツールについて詳しい解説があり、各章の「アクティブ公民」のコーナーにおいて、思考ツールを活用しながら生徒同士が思考を整理しながら対話的活動ができるようになっている。

朝比奈委員

現在帝国書院を使用しているが、検討委員会からは特に東京書籍を推されている状況である。勿論東京書籍も素晴らしいが、やはり社会科の教科書としての出来上がり方は帝国書院が凄くまとまっていて見やすいと思う。特に鎌倉の子どもたちに親しんでもらうという意味では、カラーの巻頭ページにあるパークアンドライドの話題の中で江ノ島電鉄が紹介されていることも良いと思った。全国でみんなが学ぶ教科書に、自分が住んでいる町が出ているということは、それだけで興味を引きつける大きなきっかけになると思う。これらの理由から、私は帝国書院を推したいと思っている。

長尾委員

私は東京書籍と帝国書院で迷った。東京書籍は確認意識の設定ができることで、生徒たちそれぞれに深い学びを提供できるのではないかと、また、生徒同士が会話できる工夫が非常にあったと感じた。しか

しながら、結果でいうと帝国書院を推したいと思っている。その理由としては、「アクティブ公民」というコンテンツにおいて、自分事で捉えられるよう非常に工夫されていること、また、経済、金融、ライフプラン等の私たちがこれから子どもたちに教えて行かなければならないリアルな点が非常に厚く、深く取り扱われていた。この点が他社に比べて帝国書院の良い部分であると思っている。そういった理由で帝国書院を推したいと思っている。

下平委員

各社とも流石に良い出来だと思った。例えば自由社に関しては、最近の教科書には珍しく白い部分が多く、色々と書きこんで活用出来るようになっている。また、記入欄を多く設けているので、グループ討議等をして、記入しながらみんなで考えることができる。正に「アクティブに深めよう」というタイトルのとおり、そういった活動に利用出来ると思った。巻頭において、「すごいぞ日本の技術は」と銘打ち、日本の様々な技術について一覧で見られる様になっており、何か誇れる様な気持ちになれる入口になっていると思った。育鵬社に関しては、他の会社にもあるが持続可能な開発目標のSDGsがしっかりと取り上げられている。また、各章ごとに入口、それぞれの明確な課題、学習を深める、これからの未来を考えるという組み立てになっていて、学習が進めやすくなっていると思った。加えて、「ゲーム理論から考える国際問題」というコンテンツがあり、最近の生徒たちにとっては非常に興味をそそられながら学び取ることができると思われる工夫があると感じた。教育出版は、「公民の技」や「公民の窓」等のページにおいて興味深い内容が随所に取り上げられていた。日本文教出版は、217ページに鎌倉市のプラスチックによる海洋汚染の問題を取り上げていて、鎌倉の子どもたちにとっては非常に興味深く学べる部分であると感じた。東京書籍については担当指導主事の話にあった通り、「確かめよう」、「振り返ろう」、「深めよう」と段階を追ってどう取り組んでいくのか、どのようにそれを活用していくのかということが学べる工夫がされている。また、各章の探求のステップが非常に明確になっていて、分かりやすい工夫がされた教科書だと感じた。現在使用している帝国書院もやはり素晴らしいと思った。朝比奈委員から話のあった通り、巻頭に江ノ島電鉄が取り上げられていて、パークアンドライド切符に関して世界に誇れる物として紹介されていた。また、103ページに、小さくではあるが「鎌倉市公共の場所におけるマナーの向上に関する条例」が紹介されていてありがたいポイントであると思った。帝国書院は歴史の教科書にもタイムトラベルということでイラストをうまく使った活用があったが、公民に関しても45年前と今の社会とを明確にイラストで表記してあり、その対比の中でどう社会が変わっているか、そういう視線を育める様に作られているところも非常に魅力的な作りだと思った。イラスト、写真、文字をバランス良く配置して見やすい工夫も感じられ、私は現行どおり帝国書院を続けて使うのが良いと思う。付け加えになるが、17ページから19ページに小田原市のことや横浜市のことが取り上げられていることも良いと思った。

林委員

私も帝国書院が良いと思う。しかしながら、本当に各社ともSDGsとの結びつきを明確にしており、また、QRコードの内容が充実していて、自分の課題を自分で解決するという学習者中心の学びに近付けていっていることが伝わった。帝国書院は、思考ツールの使い方を学んで、色々なところで活用できるところ、また、長尾委員からも話があったが、生活の中から疑問を考えて、自分事として捉え考えていく

という点は、まさしく未来社会を生きる子どもたちにぴったりの内容だと思った。加えて、その章の問いが、各ページに継続的に書かれているので学んでいることがぶれない構成となっている。これはとても大事なことだと思う。東京書籍は、ピンポイントな話になるが、72ページに「違いの違いを追及しよう」というコーナーがある。違いの違いを追及するという言葉は、公民や人権について考えるにはとても良い言葉であり、ぜひ子どもたちに伝えて、これを学んでほしいと思った。また、「まとめの活動」というコーナーがあり、各観点で振り返られる工夫があるという点も学習の調整ができて良いと思っている。教育出版は、教科書の下ところにSDGsの情報が書かれていることで関連が分かりやすい。丸はついていないが、日本文教出版は、各編のはじめに小学校で学習した内容が明記されている。マンガのような雰囲気書かれていて、そこに学習の進め方が加わる構成となっており、自然に学習に入れる配慮が感じられた。自由社は、全体的にすっきりして非常に読みやすいレイアウトで作られていると感じた。色々と申し上げたが、私も帝国書院を推したいと思う。

高橋教育長

私も非常に迷った教科書である。現行使われているのは帝国書院の教科書である一方、検討委員会からは東京書籍が推されている状況である。検討委員会の議論を踏まえ、教科書も全て目を通したうえで、やはり東京書籍と帝国書院の2社が、鎌倉の子どもたちにとってふさわしい教科書であると各委員からも指摘があったところである。公民は、民主主義のこと、経済活動のこと、あるいは国際社会と自分たちの社会のつながり等の理解を深めながら、現代社会に様々な課題があるところを公正に判断していく力を培い、また、林委員から話のあった「違いの違い」のように、多面的多角的な考察や深い理解を得るうえで非常に重要な教科書だと思う。そういった中、非常に迷うところであるが、各教育委員からは帝国書院を推す声が大きかったと思っている。帝国書院の歴史や地理等の他の教科書にも通ずるところであるが、「アクティブ公民」といった点で思考ツール等も用いながら主体的、対話的、深い学びに誘う工夫がされている。東京書籍にも「探究のステップ」等の取組があるが、帝国書院は題材に「鎌倉市公共の場所におけるマナーの向上に関する条例」を取り上げていて、SDGs等の子どもたちにとって関心が高く身近なものを使っている。また、45年前と今の違いをイラストで表現している点等を通じて、探求的に学んで行くという視点が非常に意識された教科書であると思う。それは他の地理分野や歴史分野にも通ずる作りになっていると思われる。そういった点を重視し、公民的分野は帝国書院を選定したいと思うがいかがか。

(異議なし)

高橋教育長

それでは公民的分野は帝国書院を選定する。次に、地図について担当指導主事より報告書の説明を願いたい。

地図担当指導主事

それでは地図について説明する。検討委員会で2社の教科書見本を検討した結果、特に帝国書院への意見が多く、検討委員会として一番目の推薦になった。まず帝国書院について説明する。気候や産業

に対する主題図や各州の地方の鳥瞰図が豊富に掲載されており、地域の特徴をより詳しく的確に理解できるように工夫されている。「地図で発見」というコーナーではクイズ形式で学習を深める問いが設定されており、生徒の興味関心を深める工夫がされている。続いて東京書籍について説明する。その地域にある建造物等についても細かく紹介されており、歴史を学習するときなど、教科を横断した学習を進める際にも活用することができる。

朝比奈委員

今後はデジタル教科書が当たり前になるのだろうか。やはり地図などは紙を開いて見た方が頭に入りやすいと思う。ピンチアウトして拡大するといったデジタルの良さも勿論あるが、なかなか紙に取って変わることはない、そういう教科の1つではないかと思っている。私は帝国書院の地図が大変読みやすいと感じている。地図だけでなく資料、気候、産業に対する資料をはじめとして、地図で発見というコアな部分も良くできている。その点は勿論東京書籍も良くできてはいるが、やはり地図の見やすさという観点から、率直に2社のどちらかを選ぶかとなると帝国書院を推したいと思う。

長尾委員

両社本当に大差がないという第一印象であった。その中で、私は帝国書院を推したいと思う。その理由として鳥瞰図の豊富さがある。私は地図を読むのが苦手であるが、鳥瞰図であれば頭に入ってくる気がした。鳥瞰図の豊富さは非常に素晴らしいと思った。また、地域ごとにQRコンテンツが豊富に設けられており、どのようにそれを学び取るかは生徒たちの力によるかも知れないが、情報量が多く非常に学びを進めやすいと思った。

林委員

私も帝国書院が良いと思っている。ページ数を比較すると、帝国書院は198ページ、東京書籍は176ページで20ページ程の差がある。この差の理由は何かと見てみると、帝国書院は資料が非常に充実している。逆に東京書籍はデジタルに特化しているためか、めくった際に地図が多い印象を受ける。QRコードを使えば色々なコンテンツが入っていると思われるが、地図と資料を見合わせていくことを考えると、QRコードを読み取って見るよりも読み深めができると感じた。この点、帝国書院が上手だと思ったところである。現場にはQRコードのコンテンツが得意な教員、子どもたちもいる一方、紙ベースでの指導が得意な教員、子どもたちが混在している。帝国書院にも勿論QRコンテンツはあるので、今回はより資料が充実した帝国書院を使って勉強してもらいたいというのが私の思いである。

下平委員

どちらの教科書も地図としての機能に遜色はなく、巻末の資料が充実していることも魅力的であった。東京書籍に関しては、8ページにSDGsが取りあげられており、見慣れている図が掲載されているが、それぞれのマークの意味まで丁寧に記している。改めて噛みしめて学び取るのに非常に良い資料だと思った。また、111ページに江戸と東京の鳥瞰図の比較があり、これも考えながら学べる非常に良い教材だ感じた。東京書籍も捨てがたいと思ったが、長尾委員から話があったように、帝国書院は鳥瞰図が多く、それぞれの州、それぞれの地域全てに鳥瞰図が書いてある。例えば東京書籍のヨーロッパの

鳥瞰図と帝国書院のヨーロッパの鳥瞰図を比べてみると、帝国書院の鳥瞰図の中にはイラストで人物、服装、生活様式等が載っていて、地理的な視点だけではなく、その土地の生活等も含めながら色々と感じることができる。鳥瞰図についていえば、非常に魅力的なのは帝国書院だと思ったところである。東京書籍は非常に色使いが優しく、清潔感があってすっきりしている一方、帝国書院は非常に色鮮やかで明確でくっきりしていることが特徴であると思う。この点どちらも非常に捨てがたい魅力があるが、先ほど地理を帝国書院としたこともあり、帝国書院を推したいと思っている。担当指導主事からの話では、地理と地図の出版社が異なっても構わないという意見があったが、改めて地理の教科書を見ると随所に地図が出てきており、これは当然帝国書院の地図なので、連動性という意味では地図も帝国書院にした方が良くと思った次第である。

高橋教育長

私も、東京書籍、帝国書院ともに鎌倉の子どもたちにとってふさわしい学びができる教科書であると感じた。また、検討委員会、各教育委員ともに、どちらかといえば帝国書院を推す声が大きかったと思う。どちらも甲乙つけがたいが、朝比奈委員から話があったように、帝国書院は資料が豊かでバラエティに富んでいて、非常に楽しく読むことができた。その上でQRコンテンツも非常に充実しており、地理の学習をするにあたっての位置や分布、人と自然の関係性を学びやすく、空間的にも社会、経済、政治的にどういった関係性があるかといったことを通じて、より多面的に学んでいくことができるのは帝国書院であると感じられた。各教育委員のコメントも踏まえ、地図は帝国書院を選定したいと思うがいかがか。

(異議なし)

高橋教育長

それでは地図は帝国書院を選定する。次に、数学について担当指導主事より報告書の説明を願いたい。

数学担当指導主事

数学について説明する。資料を参照願いたい。検討委員会で7社の教科書見本本を検討した結果、東京書籍、大日本図書、学校図書の3社が特に鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また、3社の中でも特に東京書籍への意見が多く、検討委員会として1番目の推薦とした。まず東京書籍について説明する。デジタルコンテンツが豊富に備えられ、視覚的に捉えやすい工夫がされており、生徒が主体的に学びやすくなっている。またつながりを意識した「同じように考えると」、「それなら」という吹き出しが数多くあり、数学的見方・考え方を意識しやすい工夫がされている。次に大日本図書について説明する。導入の課題に身近な課題や取り組みやすい題材が多く使われており、生徒が主体的に学習に取り組むやすい工夫がされている。最後に学校図書について説明する。説明する力をつける場面を対話形式で示すことで丁寧に思考を考えることができ、説明する力を身につけることができる工夫がされている。

長尾委員

結論から言うと東京書籍を推したいと思う。選んだポイントとしては「マスコネクト」という世界観で学びの深さを示していること、また、学びのフローが載っているが、これが周りの考えを知り、話し合い、振り返り、深めることが実現できる構成になっていて、数学を1人で行うのではなく、分からない点を友達と学び合う構成が非常に良いと思った。担当指導主事から話があったとおり、デジタルコンテンツが非常に豊富であり、受け身だけではなく、コメントや文字が入力できるようになっていて、子どもたちも興味が湧きやすいのではないかと感じた。演習の問題量も非常に豊富であり、「クイックチェック」というもので振り返りができるが、結果ではなくそのステップが出てくる工夫があり、様々な進度、理解度の生徒が学びやすいと感じた。大日本図書は、デジタルコンテンツが少し足りないと思ったが、「社会にリンク」というページがあり、数学をどうやって今の世の中、自分たちの未来につなげていくのかを表現していて、この点は非常に素晴らしいと思った。学校図書も、QRコードはあるが、もう少しボリュームがあると良いと思った。また、「さらなる数学へ、協働学習」というコンセプトがあり、これは深い学びに導くために非常に良いコンテンツだと感じた。丸はついていないが、啓林館は、復習の問題量が非常に多く、これがQRコードで示されていて、また、紙面のレイアウトが非常に見やすく学習しやすい印象を受けた。学び遅れた生徒、もしくは数学が苦手な生徒も学びやすい工夫があり良いと思った。数研出版は、逆にチャレンジ問題が豊富であった。もっと学びたいと思う生徒には数研出版のような教科書が非常に良いと思った。一方で動画やアニメも工夫されていて、理解不足の生徒にも学びやすい工夫があると感じた。様々見る中でバランスをとると、東京書籍が鎌倉の子どもたちにふさわしい教科書であると思う。

下平委員

長尾委員から話があったとおり、数研出版は自分で上を目指していこうという構成になっている。鎌倉の子どもたちは全国から見てレベルが高いので、「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」のコーナーや、学びの自己評価ができる工夫もあり良いのではないかと感じた。日本文教出版は、表紙に非常にくっきりとしたケーキ、サッカーボール、サイコロが描かれているが、これがただの絵ということではなく、裏表紙において数学的な意味が解説されていて、工夫があって非常に素晴らしいと感じた。また、振り返りシート、対話シートなどが切り離して提出できる形式になっており、これも教員によっては非常に活用しやすいのではないかと魅力を感じた。他の出版社でも数学を活用して仕事をしている方々が色々なところに取り上げられているが、東京書籍では特にそういうコラムを多く設けていて、ロボット開発者、マーケティングアナリスト、気象予報士、それから興味深いところでは渋滞学の研究者、アートディレクター等が紹介されている。数学はこんなに色々な分野で活用されていて、学びが生きていくのだということが感じられ、非常に興味深かった。更に東京書籍は、振り返りにあたり1年間の補充問題だけでなく、発展的に活用できるようになっており、また、数学の自由研究が広げていけるようにする工夫も大変魅力的だと思った。副教材なしでも、QRコンテンツを生かして充実した内容になっていると感じたところである。以上の理由から、東京書籍を推したいと思う。

林委員

私も結論から言うと東京書籍を推したいと思う。先程数研出版の話において、チャレンジしてステッ

プアップしていくという話があったが、逆に東京書籍では1章の前に0章を作っていて、そこが「算数から数学へ」というコーナーになっている。中学の学びに入る前の0章というのは、私は非常に良いと思った。算数があまり得意でなかった子どもたちが、もっと難しい数学を学ぶのかと思ったときに、0章を通して小学校で学んだことを振り返り、それから1章の中学の単元に入るという流れが、算数が苦手だった子どもたちには安心感があるのではないかと感じた。その後も、イラスト等で自然に単元に入っていける工夫がされている。各学年の最後に学びのマップとしてまとめが書いてあるコーナーがあり、それが1年、2年、3年と積み上がっていき、3年の最後には3年間の数学の学びの内容がたくさん書かれていて非常に良いと思った。裏表紙のイラストが問題にもなっており、子どもがただの裏表紙ではなく、問題があると考えたろうかというアイデアが良いと感じた。大日本図書は、最終ページのまとめの折り込みが保存版になる点が良いと思った。学校図書は、各章の始めに問いがあり、それが一行フレーズになって子どもが学んでいくと思い、良いと感じた。啓林館は、「数学広場」の「学びを活かそう」において、数学を越えたテーマで数学の活用に触れていて良いと思った。日本文教出版は、ノートに貼る振り返りシートがあるが、ノートに貼って使うようにコメントが書いてある。デジタルコンテンツを主としている中でも、ノートに自分の考えや学びの手順をまとめることは指導しているので、ノート指導、ノートを大切にするという点もしっかりと意識して作られていて、全体的なことを考えてくれた教科書であると思った。丸はついていないが、教育出版は、新しい章に入る前に復習問題があり、前に学んだことを思いだした後に次を学ぶというステップがある。また、各章の終わりに「学習のまとめ」、「章の問題」、「数学の広場」という3セットで、自分の学びを自分で振り返るという学習の仕方がしっかりと整っていると感じた。最終的には、小学校の学びを大事にして数学嫌いをなくしていこうという暖かい心が感じられる東京書籍の教科書を推したいと思う。

朝比奈委員

私も東京書籍を推したいと思う。おそらく、私のように途中で挫折しかけるような人間に、「数学はこういうことに役に立つのだよ」と思い起こさせるため、数学を活用して仕事をしている方々のコラム等があるのだと思う。各社ともそういった取り組みはされているのだが、その点特に東京書籍が上手く、肝を捕まえていると感じた。是非東京書籍でしっかりと数学を勉強し、数学嫌いにならないように教員が指導してもらいたいと思う。

高橋教育長

各教育委員から重要な視点について話が合った中で、東京書籍を推す声が大きかったかと思う。検討委員会から推薦のあった大日本図書や学校図書も鎌倉の子どもたちにふさわしい教科書だと思った。また、その他の教科書についてもやはり工夫が凝らされていると感じた。そのうえで、東京書籍は、長尾委員から話があったように、デジタルコンテンツを始めとした様々な仕掛けにより、個別最適で協働的な学び、あるいは学習者中心の学びというのが非常に進めやすい工夫が凝らされており、また、林委員から話のあった、小学校からの流れを汲んだ構造的な教材の作り込み方になっている点も高く評価できると思う。加えて、数学は得意な子と苦手な子が別れてしまう教科の1つだと思っているが、どんどん進めて深めていきたい子どもたちに対しては自ら進んで取り組んでいくような工夫や問題に溢れている一方、ここは基本として押さえてほしいという点については、習熟度にあった確認や習得について重視

したコンテンツも分かりやすくなっている。デジタルコンテンツについても、動画、シミュレーション、ワークシート、問題等が充実していて、こういう時代になったのだと感じながら見ていた。数学をより主体的、または対話的に深く学んでいくことができ、どのような子どもたちにも個別最適で協働的な学びを促していく工夫に溢れている構成をしていることを重視し、数学は東京書籍を選定したいと思うがいかがか。

(異議なし)

高橋教育長

ここで一旦午前中の部は終了とし、昼休憩にしたいと思う。再開は 13 時 10 分からとする。

<休憩>

高橋教育長

それでは13時10分になったので、議事を再開する。理科について担当指導主事から報告をお願いします。

理科担当指導主事

理科について説明する。検討委員会で5社の教科書見本本を検討した結果、教育出版、学校図書、大日本図書の3社が鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また、3社の中でも、特に教育出版への意見が多く、検討委員会として1番目の推薦であった。まず、教育出版について説明する。各学年に掲載されている「私のレポート」では分かりやすい作成例が掲載されており、苦手な生徒にもよく分かるように書いてある。これにより、理科的思考が目に見えて分かりやすく参考になる。単元の最初にある「思い出そう」というコーナーでは、小学校の内容と関連付けて考えることで継続的な学びへの配慮がされ、要点と重要用語の整理に赤シートを用いて隠すことで学習に生かすことができるようになっている。続いて、学校図書について説明する。QRコードを読み込むことで出てくるサイトをみると、教科書の文章が6カ国語に対応するようになっており、併せてそのサイトにAIチャット機能があり予習復習に役立つ機能がある。最後に、大日本図書について説明する。たくさんの種類のコラムが載っており、生徒が理科に関心を持つことができるよう作られている。1年生の初めの段階でレポートの書き方の例が載っているところも探究のきっかけとなる。

朝比奈委員

生徒たちが何故理科を勉強しなければいけないのかと思ったときに、科学の発展に寄与するためというような大きい話や、とにかく科学をきちんと学んでいかないと駄目だという漠然とした話ではなく、何が大事であるかわかるように、勉強へ上手く誘うような読み物として工夫されていることが、苦手意識を持っている生徒たちには大切なきっかけになると思う。それを踏まえて見ると、教育出版はすごく読みやすいと感じた。瑣末なことであるが、241ページにある家庭の電気配線についてもわかりやすく、「そういえばこういうことをやったな」と覚えていれば、家の中で何かトラブルがあっても対応出来る

内容である。理科の教科書には、大人になってから役に立つことが沢山載っている。生活していると科学的な知識があれば理解できることが沢山あるので、是非しっかりと学んでもらいたいと思う。そういう視点から考えると、教育出版を推したいと思う。

長尾委員

私は少し迷っている。教育出版が1番良いと思っているが、検討委員会において現在使用している学校図書から変更することについて意見があったか伺いたい。

理科担当指導主事

調査員の教員は新しい学びに挑戦している教員が非常に多く、例えば学校図書と教育出版を比べたときに、子どもたちが自分で読んで学び進めることが出来るという観点では教育出版の方が良いという話があった。

長尾委員

自分たちで学び進めるには教育出版の方が学びやすいのではないかという意見があったことは理解した。学校調査票もあると思うが、学校の教員の評価はかなり割れていたのか。

理科担当指導主事

学校の教員の評価については、数ポイント差で拮抗していた。

長尾委員

拮抗していたということで理解した。学校図書が良いと思った点としては、各コラムにおいてノートの書き方やまとめ方について、学んだことや考えたことを養った上で表現の仕方をしっかりと導いているところであり、学習のアウトプットとして非常に素晴らしいと思っている。しかしながら、学習者中心の学びという視点では、検討委員会において教育出版の方が良いという意見があったことも加味すると、迷うところだが教育出版を推したいと思う。

下平委員

単純な質問となるが、今回5社ある教科書について、タイトルが「サイエンス」、「科学」、「新しい科学」、「理科の世界」、「中学理科」と全て異なっている。科学、理科、サイエンスという言葉は同様の意味であると捉えてよいのか。

理科担当指導主事

理科と言う大枠の中で色々な学びをしていくので、同じ意味と考えて良いと考える。

下平委員

各社全て見比べた中で、単元の流れや取り上げているポイントは同じであるにも関わらず、何故タイトルが5社とも異なるのか興味を持ち質問した。内容としては、どの教科書もそれぞれ良いところがあ

り、啓林館は、構成、色使い、配置等に工夫があり非常に見やすく、各単元にまとめ、力試し、探求シート等が充実して作られている。自分たちで復習をしていくのに使いやすい教科書だと感じた。東京書籍は、写真やイラストがとても多く使われている中で、配置に工夫があるために非常にすっきりと見やすい工夫がされていた。また、タイトルが「なんでこうなっているの?」とか「明日は()かもしれない」とか「次のヒントに会いにいこう」といった、好奇心をそそられるものとなっていて魅力的であった。また、活用問題や確かめ問題等が充実しており、復習しやすい作りになっていると感じた。学校図書は、表紙だけではなく、中に取り入れられている写真が非常にダイナミックでわくわくさせるものであり、個人的に好みである。また、補充資料が充実していて、「理路整然」のコーナーでは、興味深い内容がさらに取り上げられている点も学校図書が魅力的だと感じたところである。一方で、教育出版も同じように魅力的であり、江ノ電の写真がダイナミックに使われている点は非常にありがたいと思った。また、重要語句が赤シートを活用して勉強できるようになっている点も良い工夫だと思った。教育出版は、確かに自分で読み進めて学習しやすい作りになっていると感じた。学校訪問に行った際に、理科の教員が一步先に行く指導をしている場面を目の当たりにする機会があり、生徒たちが自ら学びたいもの、興味を持つものを積極的に学んでいるシーンを見ることができた。それを受けて、検討委員会が自ら学んでいける教科書として教育出版が望ましいと選んでいるのであれば、教員に先進的な学びを進めてもらうためにも教育出版が好ましいと思っている。

林委員

今下平委員から話があったように、学校現場の教員が先進的な指導を実践している。小学校においても、理科では顕微鏡で見えるものを画面に映して見たり、音楽ではタブレットに音源と楽譜を入れて見ながら演奏したりと、少しずつ新しい学びの仕方に移っている学校が増えてきている。現場にはそこに行きつかない教員もいるが、足踏みをしていては前に進めないため、理科においては一步踏み出し、自分の学びで自分を作っていくというところにチャレンジしている教育出版の教科書で学んでもらっても良いかと思っている。

高橋教育長

現行では学校図書の教科書を使っている一方、各教育委員からは教育出版を推す声が大きかったと思っている。理科はまさに科学を扱うこともあり、各教育委員からも「探求」というフレーズが沢山出てきたように、科学的な思考法や科学的な探求が非常に重要な教科であると思う。その中で、より読みやすく、学習者中心の学びや個別最適で協働的な学びに繋がる授業をするのに適した教科書と考えると、やはり教育出版の内容がふさわしいと感じている。各教育委員からも話があったように、教育出版を選ぶということは、主体的、対話的な深い学び方、あるいは探求的で学習者中心の学び方にチャレンジしていこうという意思の表れだと思っている。検討委員会からもそのように声が挙げられているのであれば、我々教育委員会としても一貫してしっかりと後押しをしたいという想いを持っている。検討委員会の教員は特に新しい学びに邁進している教員だと思うが、その教員の背中を追っていく若いリーダーの教員にとっても、学習者中心の学びを展開していくうえでは良い一冊だろうと思いながら、教育出版の教科書を見ていたところである。各教育委員から補足等なければ、理科は教育出版を選定したいと思うがいかがか。

(異議なし)

高橋教育長

それでは理科は教育出版を選定する。次に、音楽一般について担当指導主事より報告書の説明を願いたい。

音楽一般担当指導主事

音楽一般について説明する。資料を参照願いたい。検討委員会で2社の教科書見本本を検討した結果、教育出版、教育芸術社の2社とともに鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また2社の中でも特に教育芸術社への意見が多く、検討委員会として1番目の推薦とした。まず教育芸術社について説明する。鑑賞音源、模範演奏、パートごと音源など、QRコードからの資料やウェブコンテンツが豊富で、主体的な学習につながるよう工夫がされている。また著作権に関しての解説も入っている。1年20ページ、2・3年上34ページ、2・3年下38ページを参照願いたい。創作に関する部分が学習時期によって発展的に扱われ、作曲ソフトを用いなくてもQRコードから「創作ツール」を用いることができ、学習者中心の学びにつながるよう工夫されている。次に教育出版社について説明する。写真が鮮明で、楽譜はページいっぱいに配置されているので、見やすく、生徒が意欲的に学習することが出来る。

林委員

現在小学校で使用しているのは教育出版である。小学校の教育出版の教科書は、非常に基礎基本に則っており、楽器の使い方をはじめ他の学習についてもしっかりと基本を学べる1冊となっている。音楽は基本的に時間数が少なく、色々な行事の中で音楽の練習をしなければならないことで授業に関わる時間数が非常に取りにくい教科書である。その中で、学習者中心の学びになるような音楽の学びをしようとするならば、教育芸術社はQRコードが充実しており、自分で色々なことが出来るという点が非常に秀逸だと思っている。また、先程紹介があった創作の部分についても、手順を追えば完成できる流れが紹介されており、自分でも出来る点がとても良いと思っている。教育芸術社は、新しい曲を積極的に取り入れていて、過去から現在まで幅広い音楽を経験できるように構成している。一方で、教育出版は、非常にオーソドックスな選曲であり、和音等安定した曲作りとなるよう考えられている。教育芸術社の教科書の中には、見開きで学習内容の一覧を載せたページがあり、学ぶことをコンパクトにわかりやすく表現している。これを見れば年間計画や指導計画も立てやすく、どの題材をどの時期に行うのが適切なのかが一目瞭然である。教える側にとっても子どもたちにとっても、この曲の時にこういう勉強をするのだというのが見え、見通しのある学びができると思う。音楽は、歌唱、創作、鑑賞という3つの観点があるが、教育芸術社はその3つが三色に色分けされていて、各ページがその色合いを保ちつつ一冊の教科書となっている。教育出版では、ボレロの鑑賞について、教育芸術社よりも視覚的に見る、聴くということが両方できる内容になっていて分かりやすいと思った。どちらも優劣付けがたいが、学びの一覧が非常に分かりやすい点、そしてQRコードが充実している点から教育芸術社を推したいと思う。

長尾委員

教育芸術社は、創作ツールについて非常に長けていると思っている。これを子どもたちが使うことで、学習者中心の学びが進んで行くのではないかと期待している。それと2年生、3年生についてだが、伝統的な能や歌唱だけでなく、ポピュラー音楽まで広げて言及されている。今時の子どもたちが聴いている音楽についても、どのようにカテゴライズされていて音楽として成立しているのかがわかりやすくなっている。子どもたちがより学びやすく、興味関心が湧きやすいのではないかと思います、教育芸術社を推したいと思う。

下平委員

どちらも非常にバランスの良い装丁であり、見やすさも工夫があるので、本当に甲乙つけがたいと思っている。これも時代の流れであるが、教育芸術社には、「Let's Create!」という自分たちで創作するツールがあり、教育出版には、音楽制作アプリを使って音楽を作ってみようというチャレンジできるページがあった。また、どちらも著作権に関して大切に扱っているページを組んでいて工夫されていると感じた。教育出版は、神奈川県立音楽堂のことが丁寧に載っていて、神奈川に在住する私たちにとっては興味を惹かれるポイントであると思った。また、「ポピュラー音楽図鑑」というのが載っており、個人的に非常に面白い組み立てになっていると思った。教育芸術社にも同じようなページがあり、どちらも甲乙つけがたい魅力があると思う。現在教育芸術社を使用していることを考えると、引き続き教育芸術社を採択するのが良いのではないかと感じている。

朝比奈委員

私が音楽の教科書を見るときのポイントとして考えるのは、クラシック、ポピュラー、洋楽等の海外の音楽ばかりではなく、日本の伝統的な音楽をどのように取り上げているかという点であるが、それについてはどちらの教科書も遜色なかったと感じた。日本の伝統的な音楽とオペラではどのように違うかと比較する表現や、外国の民族音楽はどのようなものか等、どちらも音楽に興味を持ってもらえる工夫に溢れている。そのため、強い優劣があるわけではなく僅差であるが、見た目の印象やQRコードを用いた工夫等の差や、現在教育芸術社を使用している状況から、教育芸術社を推したいと思う。

高橋教育長

各教育委員からは、教育芸術社の優れている点についての指摘が多かったように思う。音楽は、感性をより豊かにする教科であり、まずは音楽の良さや美しさを味わって聴く、創作してみる、そういった点で豊かな情操を育んでいくことが目指すところの1つだと思っている。その点から考えると、教育芸術社は、創作ツールをはじめとしたデジタルを含むコンテンツの充実ぶりが、教科の目的を達成していくうえで強みになるのではないかと思います。林委員から話があったように、全体の見通しや、この曲でどういうところができるようになったら良いのかがわかりやすい点も強みであると感じている。以上の理由から、音楽一般は教育芸術社を選定したいと思うがいかがか。

(異議なし)

高橋教育長

それでは音楽一般は教育芸術社を選定する。次に、音楽器楽合奏について担当指導主事より報告書の説明を願いたい。

音楽器楽合奏担当指導主事

音楽器楽合奏について説明する。資料を参照願いたい。検討委員会で2社の教科書見本本を検討した結果、教育出版社、教育芸術社の2社ともに鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また、2社の中でも特に教育芸術社への意見が多く検討委員会として1番目の推薦とした。まず、教育芸術社について説明する。巻末の楽器図鑑では様々な楽器が系統的に示され器楽教材だけでなく鑑賞学びを深めていく手立てとなる。アンサンブルでは親しみやすい曲や鑑賞教材で取り上げられている曲が様々な楽器の組み合わせで取り組める内容となっており学びを深められる活動につなげられる。次に教育出版について説明する。リコーダーの運指図が適切な配置となっており主体的に取り組む手立てとなる。

林委員

先程音楽一般の選定の際に教育芸術社の教科書について発言したとおり、音楽器楽合奏においても見開きのページに学習内容が一覧でまとめられている。「器楽は表現で器楽と創作」というページになるが、この見開きページは、例えば教材と学習内容の関連が深いと色も濃くなり、どの曲がどのように勉強していくかが分かるようになっている。音楽一般の時と同様に、これがとても秀逸であり、教育芸術社を推したいと思っている。

昨今、日本の古典音楽、色々な和楽器の学びが増えてきている。その状況の中、日本の伝統楽器の楽器編制について、教育芸術社の59ページに一覧がある。音楽毎に使われている楽器の案内が写真入りで出ており、耳で聞くとともに、楽器の写真を目で見ること、この音楽にはこの楽器が使われていて、この音楽にはこの楽器は入っていないということが一目瞭然で分かるページとなっている。「聞き分ける」、「見分ける」といった学びができる良い内容が教育芸術社にはあると思っている。教育出版は、楽器の扱い方や使い方が丁寧に書いてあり、写真も多く掲載されている。教員が指導しやすい内容になっていると思う。教育芸術社と違い、中学から習うアルトリコーダーについて、アルトリコーダーの運指と合わせて小学校で習うソプラノリコーダーの運指も併せて載っている、二本で合奏しようという際にソプラノリコーダーの指使いが分からない子どもも分かる工夫がされている。また、リコーダーの穴の押さえ方の左右について、小学校では当たり前となっていることであるが、再度しっかりと図に書かれているのでとても親切だと思う。西洋と日本の音楽のあゆみについても並行して見比べながら書かれていることも良い点であると思っているが、やはり短い時間で指導していく教科であることを考えると、最初にある学習内容の案内が整えられている点が、音楽の学習では助かる部分だと思うので、教育芸術社を推薦したいと思う。

朝比奈委員

私も教育芸術社を推したいと思う。林委員から話があったとおり、日本の伝統音楽について、伝統の楽器、雅楽とは何か、能とは何か、笛やいわゆる弦楽器等がどういう場面で使われ、どういう音が出るか等が一覧で分かることが資料として良い点であると思っている。和楽器についても、教育出版に比べ

てぬかりなく紹介されている点も良く、教育芸術社を推したいと思う。

長尾委員

両社とも本当に素晴らしいと思っており、どちらの教科書も子どもたちは非常に学びやすいものであると思っている。教育出版は楽譜がページごとに分かれていて演奏しやすくなっている。これは音楽が難しい子どもでも取り組みやすい工夫である思った。一般の教科書との連動もあるので、遜色ないのであれば既存の教育芸術社を採択した方が良いのではないかと考える。

下平委員

リコーダーに関して言えば、どちらの会社も指番号は同じように表示されており、運指図、指の運びなどに関しても非常に分かりやすく表記されている。選ばれている課題曲も豊富であるし、どちらも本当に魅力的な教科書であると思う。検討委員会からの意見のとおり、教育芸術社は巻末の楽器図鑑等が充実していると感じることもあり、現行使っている教育芸術社を引き続き使用する方が良いと感じる。

高橋教育長

両社とも鎌倉の子どもたちにふさわしいものだと思うが、各教育委員からは教育芸術社を推す声が大きかったと思う。各委員から指摘があったことに尽きるが、教育芸術社は、59ページの伝統音楽についても強みがあり、「指導要領によれば何ができるようになるか」という観点からの緻密な全体構成も素晴らしく、学習者にとって分かりやすく整理されている。音楽の楽器等の多様性を感じるとともに、創意工夫して音楽を表現することがやりやすい教材だと感じられた。巻末の楽器図鑑等も工夫にあふれており、私も教育芸術社を推したいと思った。従って、音楽器楽合奏は教育芸術社を選定したいと思うがいかがか。

(異議なし)

高橋教育長

それでは音楽器楽合奏は教育芸術社を選定する。次に、美術について担当指導主事より報告書の説明を願いたい。

美術担当指導主事

美術について説明する。検討委員会では3社の教科書見本本を検討した結果、開隆堂、光村図書、日本文教出版の3社全て鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また、3社の中でも特に開隆堂と光村図書への意見が多く、検討委員会として1番の推薦とした。まず開隆堂について説明する。生活や社会の中の優れた美術や美術文化の多様性が紹介され、インクルーシブ教育及びGIGAスクール、SDGs等、今日的な課題を取り上げるなど、生徒が興味を持ちやすい内容を取り上げている。国内外の作品、日本の文化遺産、表紙の凹凸など、多様な美術文化と楽しく出会えるような工夫がなされ、意欲的に学習ができるよう工夫されている。次に光村図書について説明する。裏表紙のバーコードのデザインなど、細部まで図版にこだわっており、すべて見開き1ページで学習内容が完結するよう構成されている

など、バランスを考えた構成となっている。2・3年27ページの「日本の絵画を楽しむ」では、本物の質感に近い和紙を採用し、生徒の学習意欲を高める工夫をしている。最後に日本文教出版について説明する。1年56ページでは、作品図版や資料が大きく、関心を高めるような作品や画像を取り扱っており、歴史的な土偶、芸術における黄金比、アイデアの言語化など、他教科との関連が図られている。

長尾委員

開隆堂と日本文教出版で迷っている。開隆堂は、表紙の凹凸を含め、最初に目にしたときそのダイナミックに度肝を抜かれた。美術の楽しさ、深さ、その世界観がこの表紙に表れているような気がして、非常に魅力的に感じた。また、QRコードも工夫されていて、生徒の作品事例やワークシート等を用意しており、それぞれ自分のペースである程度学んでいけるのではないかと思った。発想や構成のヒント等もあり、意欲的な学びに繋がりがやすいのではないかと思う。日本文教出版は、与えるだけではなく、そこから創造していきけるような工夫が随所に見られる。例えば、QRコードはどの教科書にもあるが、鑑賞の入り口として、光は絵にどのように効果を与えているかと投げかけている点や、造形的な視点としてどんな効果があるか考えてみようというように全て呼びかけをしているのである。生徒自身が教材を見ながら、自分に問いを投げかけて考えられる工夫が素晴らしいと感じた。また、ポスターやデザインなど、現実社会への活用を積極的に取り入れている。自分が描いたもの、今まで描いたデザインがどう生かしているのかという点も非常に多く取り扱っており、美術で学んだことがこの先どのように世の中につながっていくのかということが示されている。難しいところであるが、私は日本文教出版を推したいと思っている。

朝比奈委員

美術という教科は、担当する教員の個性や技量等による部分もあるうえ、限られた時間の中で授業を進めることも大変だと思う。であるからこそ、生徒が教科書を読みどれだけ美術に対して興味を持てるかが大事だと感じている。その点を踏まえると、私は開隆堂が良いと思っている。立体感があり、触って分かる圧倒的な表紙の質感が素晴らしく、日本的な絵画、仏教美術、彫刻については、浮世絵師等の紹介が豊かにされている。また、仏像がとてもリアルに紹介されていることで、お寺に行き仏像を見た際に、これも1つの美術であると感じることができると思う。開隆堂の見せ方はすごく巧みで豊かであり、昔はあえて見事な仏像や装飾を見せることが信仰を得る方法であったが、技術的な価値も高いのだと想いを馳せることができるようになっている。以上の内容から、是非開隆堂を採択し、鎌倉の子どもたちが美術に興味を持ってくれば嬉しいと思っている。

林委員

各社とも作品に吹き出しでコメントがあり、似たような作りで興味関心を高める工夫をされている。特に光村図書の「リンゴの発想の仕方は様々」というコーナーでは、リンゴをもとに周りに色々コメントが書いてあり、リンゴ1つとってもこのように色々と考えられるのだと紹介されている。その右側のページにはリンゴを扱った作品が書かれており、とても良いアイデアだと思った。また、日本文教出版では、見開きに原寸大の大きな土器を載せているが、「原寸大」というと子どもにとってはとても驚くことだと思う。絵画でも一部分だけ原寸大が載っていて、全体の大きさをイメージできる教材であると

思う。色々な工夫があるなかで、各社とも子どもが制作する様子が写真で入っているのだが、開隆堂はその写真が生き生きとしていて、子どもたちの笑顔や動きが非常に良い写真が多い。私は美術が得意ではないが、そういった写真を見ていると楽しく取り組めるのではないかと思い、今回は開隆堂を推したいと思う。

下平委員

冊数の問題について確認であるが、日本文教出版は1年生の1冊と、2・3年生の上下という構成になっている。開隆堂は全体2冊であり、1年生の1冊と2・3年の分厚い1冊になっている。光村図書は1年と2・3年の1冊ずつに加え、資料集がついていて計3冊になっている。各社構成がそれぞれ違うが、このことに関して検討委員会から何か意見は出ていたか。

美術担当指導主事

冊数が多いものについては、対象の題材を扱うときには使いやすいという意見があった。一方で、冊数が多くなればなるほどどれを見ればよいかが分からなくなるという反対の意見もあった。

下平委員

日本文教出版が丸で、他の2社が二重丸になっていることに関しても確認したい。先程話をされた以外のことで、特段工夫されていた点や、特に良かった点等意見は出ていたか。

美術担当指導主事

主として先ほど話したとおりであるが、やはり導入で教科書を使うことが多いので、作品との出会いについて考えると、作品数が多いものとして開隆堂や光村図書を推す声があった。

下平委員

開隆堂は、デジタルコンテンツで生徒作品が多く出てくると思うが、このことに関しては問題がないという意見であったか。若しくはたくさん触れた方が良いという意見であったか。

美術担当指導主事

生徒作品も多く見られた方が良いという意見が出ていた。

下平委員

各社本当に魅力があると思う。光村図書の資料集は、これ単品でも欲しいほど充実した内容で素晴らしいと思った。屏風絵に関してはどこの出版社も掲載しているが、日本文教出版は折込で大きく取り上げていて、さらに屏風を折り曲げたときの見え方までわかるように工夫されている。随所にそのようなページがあり、また、林委員から話のあった56ページの土器の原寸大はとても迫力がありとても魅力的であると感じた。日本文教出版もしくは開隆堂が良いと思っている。

高橋教育長

検討委員会では開隆堂と光村図書が二重丸、現在使用している日本文教出版が丸となっている。各教育委員からもそれぞれの良さについて話があり、私もそれぞれの教科書の良いところがあると感じている。非常に悩ましい教科の1つだと思っている。その中で、各教育委員からは開隆堂と日本文教出版を推す声が比較的多かったと思う。この中で1冊を選ばなければいけないとなると、私としては開隆堂が、より鎌倉の子どもたちにふさわしいものがあると受け止めている。どの教科書も、読んで心が豊かになるとともに、美術を愛好する気持ちが芽生えてくるものであり、ぜひ色々な人に読んでもらいたいと思える素晴らしい工夫にあふれている。また、特に美術で目指そうとする目標や子どもたちに身につけさせたい資質能力という点についてもかなり練り上げられた作りをしていると感じる。それはマークで表現されていたり、各単元や教材の冒頭において鑑賞のポイントや問いかけがあったりし、美術の美しさを感じ、感性を育むだけでなく、表現をする意図や工夫について理解できるようにする工夫がされている。美術というものの働きについても、イメージを伝えるデザインの話やマンガ表現を使って日本らしい表現の仕方も取り上げられている点は重く受け止める価値がある部分だと思う。各教育委員の意見も総合化したうえで、日本文教出版や光村図書も捨てがたい部分があるが、美術は開隆堂を選定したいと思うがいかがか。

(異議なし)

高橋教育長

それでは美術は開隆堂を選定する。

ここで一旦休憩する。再開は10分後の14時25分からとしたいと思う。

<休憩>

高橋教育長

それでは、会議を再開する。保健体育について担当指導主事より報告書の説明を願いたい。

保健体育担当指導主事

保健体育について説明する。検討委員会で4社の教科書見本を検討した結果、東京書籍、大修館、学研の3社が鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また3社の中でも特に東京書籍への意見が多く、検討委員会として1番目の推薦とした。まず東京書籍について説明する。デジタルコンテンツとして動画、資料、思考ツール、章末問題、シミュレーションツールが豊富にある。章の初めの目次の項の部分、キーワードを整理しているページ、章末問題、これが思考ツール、自分の考えや友達と話し合いながら整理していくツールがある。筋肉・骨・臓器について、方向を変えて見たり、筋肉だけに見たり、骨だけに見たり、臓器だけに見たり、名称を入れたりといったことができたり、角度を変えたりできる。また、交通安全・防犯についてのシミュレーションでは、ある地点から帰るとしたらどういう危険があるか、どの道を通っていくのが良いかと考えるときに、ここに行ったらどう見えるかを具体的にみることができ、どこら辺が危険なのかということを自分で考えられるようになっている。このよ

うに、生徒が主体的に活用して学習を深めることができる。また各項冒頭の「見つける」、終わりの「活用する」、「広げる」が身近な課題に結び付けられ、巻末スキルブックは学習を体験的に実生活に生かす内容となっており、自分事として学ぶことができる。続いて大修館について説明する。章のまとめについて、各観点がバランス良く振り返ることができるようになっていたり、保体クイズで学習した内容がクイズになっていたりして、自分で復習するのに使いやすくなっている。最後に学研について説明する。各見開き右下から進む外部リンクが、例えば文部科学省のページにつながるようになっていて、各章末の「探求しようよ！」に充実した資料や生徒がさらに深く考えたり広げたりする課題が載っていて、学びを発展させるのに活用することができる。

下平委員

保健体育の教科書を全て読み、東京書籍と学研のどちらかが良いと思った。質問だが、東京書籍のみ学び方が保健から始まっている。保健の第一章、第二章、体育で第一章の順になっているが、他の教科書は体育編から始まっている。この点に関して検討委員会から意見があったか確認したい。

保健体育指導主事

子どもたちにとっては体育の方が日常的であり、日数が多い一方、教科書を使う機会は保健分野の方が多い。その意味で保健を大切にしている使いやすいという意見があった。

下平委員

私も自分が指導することを考えると、体育の時間に教科書を持っていくことはあまり多くないと思った。そのように考えると、保健編が先になっていた方が使いやすいと感じたので質問した次第である。その点も踏まえると、現在も東京書籍を活用していることもあり、継続として良いかと思う。少し難を言うならば、表紙が今年は少し暗い印象であった。それ以外は、心の健康、心の発達、欲求の対処法、ストレスについて等も非常に充実していて、巻末のスキルブックなども活用しやすく工夫されている。デジタルコンテンツ等も上手く活用してもらえると、教科書だけでは学べない360度の様々な体験や広い視点からの話し合いもできると思う。以上の理由から東京書籍を推したいと感じた。

長尾委員

私も東京書籍を推したいと思う。デジタルコンテンツを利用した工夫により、目で見て理解するだけでなく、自分自身で考えることを進めていけるのと思い非常に魅力を感じた。加えて、本の見やすさも素晴らしく、デザインを含め見やすさも1番良かったと思っている。

朝比奈委員

私も東京書籍を推したいと思う。やはり、デジタルコンテンツを利用した工夫が素晴らしく、保健体育の保健の部分についても、衛生や感染症予防のこと等、文化的生活を送っていくうえで必要なことが、東京書籍は非常によくまとめられている。下平委員から話があったように、体育のことよりもまず保健の話が最初に出てくる点も良いと思うので、是非この教科書で鎌倉の子どもたちに学んでもらいたいと思う。

林委員

結論から言うと、私も東京書籍を推したいと思う。丸のついていない大日本図書の内容であるが、ページの下にミニ知識が書いてあり、ページをめくると違う知識が得られるようになっている。「やってみよう」、「話し合ってみよう」、「活用して深めよう」という主体的、具体的、深い学びの学習を導くコーナーがあり、また、心肺蘇生についてのページでは、折り込みを開くと写真で心肺蘇生の流れが載っており、これも非常に見やすいと印象強く感じた。学研は、学習方法が非常に丁寧に書いてある。5ページ分使って教科書の使い方と学習方法を取り扱っており、非常に丁寧な始まりだと感じた。加えて小さなことであるが、51ページに「生の構成要素」と言うシンプルに4等分に分けて書いてあるだけのページがある。詳しい話はなく、こういうページを元に色々と話し合いができると感じ、これも1つの提示の仕方だと少し印象に残った。大修館は、小・中・高の学びの系統性について、小学校ではこう、高校ではこうと書いてある箇所があり、高校までのつながりまで書かれているということが、中学生にとって次のフェーズにいく目標になり良い視点だと思った。東京書籍は、今回デジタルコンテンツの充実は勿論であるが、各章のまとめに必ずSDGsについて考える場面がある。特に「巻末スキル25」というコーナーが秀逸だと感じ、最終的には東京書籍を推したいと思う。

高橋教育長

各教育委員からは東京書籍を推す声が多かったと思う。保健体育は、生涯に渡って心身共に健康で文化的に暮らしていくための基礎になるような教科書であると改めて感じた。このことを踏まえると、東京書籍が総合的に優れている点が多いと受け止めている。保健分野が先になっているということも下平委員の話の通りであり、教科書を使って学んでいく部分を重点的に前に出している点も使い勝手の意味で良いと思った。身体だけではなく心も含め健康上の問題は様々あるが、そういった課題について、より良い解決に向けて思考したり、議論したり、学習者が自ら学んでいったりすることがしやすい教科書だと感じた。従って、保健体育は東京書籍を選定したいと思うがいかがか。

(異議なし)

高橋教育長

それでは保健体育は東京書籍を選定する。次に、技術について担当指導主事より報告書の説明を願いたい。

技術担当指導主事

技術家庭、技術分野について説明する。資料を参照願いたい。検討委員会で3社の教科書見本本を検討した結果、東京書籍、教育図書、開隆堂の3社とも全てが鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また、3社の中でも特に東京書籍への意見が多く、検討委員会として一番目の推薦とした。まず東京書籍について説明する。「技術のめがね」、「最適化の窓」を用い、技術の見方・考え方を分かりやすく説明しており、学習者の意欲を高めることができる。ガイダンスではSDGsなど日常課題について持続的可能な未来に向けての課題解決を技術分野の学びを通して考えることができる。続いて教育図書につ

いて説明する。問題解決の流れを4コマ漫画で記載されており、学習者が問題解決への手順を具体的にイメージすることができる。最後に開隆堂について説明する。世の中における技術の組み合わせで、問題解決例が様々な職業の方々のインタビューとして掲載されており、技術分野の学びと仕事の結びつきについて具体的にイメージでき理解しやすくなっている。

高橋教育長

検討委員会では東京書籍を推している声が多いとのことだが、私から見ても鎌倉の子どもたちにとって特にふさわしい内容であったと思っている。デジタルコンテンツもパワフルな内容になっており、道具の使い方等も非常に分かりやすい動画等で示されていることが強みであると感じた。技術を通じて、こういう課題を解決したいと思わせる工夫がこらされている点を重視したいと思った。また専科外の教員が教えることも現実問題として多い教科であるため、そういった観点からも、授業が組み立てやすそうな見開きの構成や導入からまとめまで分かりやすい構成の仕方をしている部分は非常に強みがあると感じている。

朝比奈委員

私も東京書籍が良いと考えている。自分の中学校時代を思い出すと木工製作やはんだ付けをしていた記憶しか残っていないが、技術では農業に関わることまで学んでいく。この教科をしっかりと理解し親しんでいくことにより、該当の職業に就いたときは勿論のこと、常識的な知識としても大事なことが学んでいけると思う。今後学んでいくべきことが豊かに書かれているのは東京書籍だと感じたため、東京書籍を推したいと思う。

下平委員

各社とも、コンピューターの基本操作、情報伝達、プログラミング、情報技術テクノロジー、セキュリティ等豊富に盛り込まれていて、教科書も変わっていったと感じた。東京書籍は、「未来を創るTechnology」という副題がついている。非常にバランスよく内容が組み込まれており、すっきりとした見やすい構成になっている点が魅力的だと思っている。開隆堂は、「テクノロジーに希望をのせて」と題して、コンピューターやプログラミングのページが非常に充実していると感じた。教育図書は、様々な方々の技術分野の活用のメッセージ等がところどころに出てくるようになっており、読み物としても非常に充実して作られていると感じた。しかしながら、総合的に見て現在使用している東京書籍を継続して活用していく方が良いと思っている。

長尾委員

内容は各社ともしっかりしていて遜色ないが、東京書籍は非常に分かりやすく取り組みやすい内容構成だと感じたため、東京書籍を推したいと思う。開隆堂の教科書で非常に良いと感じた点は、職業人のインタビューが非常に充実していたことである。世の中でいう有名人ではなく、もっと身近で仕事している方をピックアップしインタビューしている。技術分野の出口という観点で、世の中でどのように学んだことを生かせるのかという点をしっかりと言及していて素晴らしいと感じた。

林委員

結論から言うと、私も東京書籍が良いと思う。その理由の1つとしては、導入の「身の回りの材料と加工の技術」というページで、教室の机を用いて説明を行っていることである。身近なものを例に挙げてスタートする構成は子どもにとって理解しやすいうえ、そこから棚を作る作業の話に続き、問題を考えていくというストーリーがとても自然で良いと思った。開隆堂は、「テクノロジーに希望をのせて」という言葉があり、物事を解決するという意味の希望、また、新しいものが作られていくというテクノロジーに対する期待の両方が込められており、子どもたちに対して、それこそ期待がある言葉で良いと思った。また、開隆堂はドラえもんの秘密道具が既に現実化しているというコーナーが最初にあり、「翻訳こんにゃく」等を例に挙げていた。自身が読んだときも驚き感嘆した良い視点を最初に持ってきていると感じた。教育図書は、安全についての内容が割と早いページに載っていて、色々な物を作るのにあたり、安全についての話を最初に持ってくる点は良いと思った。トータルで見た際には、先程の導入についての内容から東京書籍を推したいと思う。

高橋教育長

テクノロジーの話があったが、AI、ロボティクス等の様々なテクノロジーが驚進的に進んでいる中、各社ともに今まさに進化しているテクノロジーに関する記載やイメージについて取り上げている。各社とも、子どもたちがこれから生きていく社会において、良い生活や持続可能な社会をどのように実現していくかという点につなげられる教科書であると感じた。技術は、今は農業や生物育成についても扱うこととなっており、テクノロジーと合わせてより手触り感を持って学んでいける教科書であると思う。各教育委員からも、東京書籍はSDGsをはじめ各種の取り上げが強みであると話があった。また、長尾委員から話があったとおり、分かりやすさという観点においても凄く強みを持っており、技術によって問題を解決していくということについて身に付く内容になっていると感じた。従って、技術は東京書籍を選定したいと思うがいかがか。

(異議なし)

高橋教育長

それでは技術は東京書籍を選定する。次に、家庭について担当指導主事より報告書の説明を願いたい。

家庭担当指導主事

家庭について説明する。資料を参照願いたい。検討委員会で3社の教育見本本を検討した結果、東京書籍、教育図書、開隆堂の3社全てが鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また3社の中で特に東京書籍への意見が多く、検討委員会として1番目の推薦とした。まず東京書籍について説明する。学習内容が1篇から6篇に分けて構成されており、どのように力をつけていくのか学習者が見通しを持つことができ、また、指導者にとっても指導計画が立てやすい工夫がされている。学習内容と社会のつながりが具体的に示されており、学習者が主体的に学習に取り組むことができる。続いて教育図書について説明する。イラストや写真が多用されており、レシピ等が分かりやすく主体的に学習に取り組むこ

とができる。最後に開隆堂について説明する。学習内容に関連する他教科・他分野が示されており、学習者がつながりを意識することができる工夫がある。

高橋教育長

検討委員会からは東京書籍について推す声が多かったという話であった。3社とも読んだところ、どちらも大人にこそ必要な内容が多く含まれていて、非常に重要な教科であると思っている。一家に一冊あるべき本だと感じた。その中でも東京書籍は、家庭担当指導主事から説明があったように、学習者が見通しを持って進めやすい構成となっており、写真を用いて鮮やかさが分かりやすい表現がされている。これらの点は高く評価できる。料理のプロセス等も写真付きで非常に分かりやすく整理されている。また、家庭以外の教科書も含め、東京書籍はデジタルコンテンツについて特に尽力していることが伝わってくる。包丁や野菜の切り分け方も動画で分かりやすく示すことができおり非常に良いと思った。

下平委員

質問したいことがある。技術・家庭は合わせて1つとされていると思うが、教科書会社が別でも問題はないのか。また、3社ある中で、開隆堂のみ章の組み立ての流れが幼児の成長から始まっている。この流れに関して、現行の教員は鎌倉での教育は食・衣・住という流れで行っているのか、それとも幼児の成長という話が最初に出てきていることが効果的なのか教えていただきたい。

家庭担当指導主事

技術分野と家庭分野で教科書を一緒にする必要があるかということに関して回答する。調査委員の教員からは、一緒である必要はないものの、同じであれば迷いなく使いやすいのではないかという意見があった。このため、技術と家庭の調査委員同士で情報を共有しながら研究を進めていた。2つ目についてなのだが。

開隆堂が幼児の話から始まっている点であるが、構成についての話は東京書籍が6篇に分かれている点の方が調査員教員は良さを感じており、東京書籍が大変良いという意見はあったが、開隆堂についての意見は特段なかった。

下平委員

今の点も含め、各社とも良い部分があると思う。例えば教育図書は、サイコロ図やシールの工夫、食品群について丁寧に書かれている。開隆堂は、和服の着付けのページで帯の結び方まで丁寧に書いていて、また、食についてのページでメニューがもの凄く豊富に書かれており、子どもたちが喜ぶ楽しい教科書だと感じた。しかしながら、先程の意見も踏まえると、現在も使用している東京書籍を推したいと思う。

長尾委員

3社とも素晴らしく、内容については遜色ないが、私も東京書籍が良いと思っている。東京書籍は、レシピの書き方が非常に明確であり、料理のビジュアルが凄く上手に撮られている。自分の普段の食事のようなリアリティがありながらも、凄く美味しそうに撮られていることで、食に興味がない子どもに

対しても関心を引けると思う。また、教科書の最初に自分について振り返るページがある。家庭分野のガイダンスとして、食・衣・住、環境、家族地域等について、自分が家庭の中でどこまで出来ているかを確認するものであり、例えば食であれば、食事の役割が分かるか、栄養バランスを考えて献立を工夫できるか等である。自分を見返してどこができていて、学習するとどこまでできるようになるのかを最初にチェックすることで、学習の見通しの立て方が、子どもにとって非常にわかりやすく良いと思った。

朝比奈委員

私も東京書籍を推したいと思う。家庭という教科において、料理や裁縫についてしっかりと学んでいれば、後の生活で困ることが少ないのではないかと思う。例えば自分に当てはめると、修行の道場において、自分たちで畑を管理し、料理を当番で作り、繕い物をしていたことがもっと困らずにできたと思う。先ほど長尾委員から話があったが、東京書籍は、料理のレシピが凄く綺麗に紹介されており、特に豚の生姜焼きが一番美味しそうに見えた。やはり、関心をもって授業に望んでもらうことが肝要であるため、見た目というのが凄く大事だと思うので、写真の美しさというのは1つのポイントであると思う。是非東京書籍の教科書を用いて、家庭という教科に興味を示してもらいたいと思う。

林委員

東京書籍について先ほど長尾委員から話のあった、16、17ページにある「自分の生活チェック」が良いと感じた。チェック項目を見ることで、自分はする必要があると分かるため、非常に良い内容であると思った。この点もあり、私も東京書籍を推したいと思っている。他にも、教育図書は、家族との関わりやつながり等のキーワードを大切にしており、一本筋が通った教科書であると感じた。クッション言葉の紹介がある等、色々な単元があるが、他者と上手く関わっていくにはどうするかという問いが根底に流れていると伝わる教科書であった。開隆堂は、卒業した後も役に立つ豆知識がページの下に載っており、また、防災に関して十分なページが割かれている。加えて、276、277ページの消費者の項目において、「8つの権利と5つの責任を考えよう」として、これから大人社会に入る子どもたちにとって大事なことを分かりやすい言葉でしっかりと伝えていると感じた。最終的には、料理についての視覚的なレイアウト、学びの進め方実習と安全についてのコーナー等、色々な点が非常に上手く作られている東京書籍を推したいと思う。

高橋教育長

現在は東京書籍の教科書を使用している。教育図書や開隆堂も素晴らしい教科書であると思うが、その上で東京書籍を推す声が大きかったと理解している。各教育委員から話があったとおり、美味しそうに見える料理の写真があることをはじめとして、自分の生活を問いなおし、生活は良いものであると思える作りをしていると思った。生活や家族について考えていくという点で、鎌倉の子どもたちにふさわしい教科書だと思う。また、構成についても開隆堂や教育図書とは異なっている。下平委員から質問のあった通り、どちらかと言えば、開隆堂と教育図書は指導要領の並びに沿っている構成であるが、東京書籍はその点をあえて変えており、子どもたちが自らの生活を作るという話から、段々と共に生きるとか消費者として地域社会で協働して行くという話へシフトしていく作りになっている。この幼児や高齢

者等の話を後ろに持ってきている構造が、検討委員会においても学びやすいと評価された部分であるの
だろうと感じた。以上の観点から、家庭は東京書籍を選定したいと思うがいかがか。

(異議なし)

高橋教育長

それでは家庭は東京書籍を選定する。次に、最後の教科であるが、英語について担当指導主事より報告書の説明を願いたい。

英語担当指導主事

それでは英語について説明する。資料を参照願いたい。検討委員会で6社の教科書見本を検討した結果、三省堂、開隆堂、光村図書の3社が鎌倉の子どもたちにふさわしいと判断された。また3社の中でも特に三省堂への意見が多く、検討委員会として1番目の推薦となった。まず、三省堂について説明する。各Lessonがリスニングタスクから始まり、言語習得のプロセスの観点から効果的な構成になっており、題材やテーマに親しむ工夫がなされている。またアニメーション動画、文法解説動画、単語クイズ、フラッシュカード、録音しての発音チェック機能、単語や本文音声、辞書機能などQRコードからの教材が充実しており、全ての生徒が個々の目標にあわせて学習しやすくなっている。続いて開隆堂について説明する。様々な国の文化に焦点を当てており、生徒の異文化理解を促す内容が多く、教科横断的な学習に発展させることができる。最後に光村図書について説明する。生徒が共感しやすい話題が多く掲載されており、日常生活で使う頻度が高い表現が使われている。

高橋教育長

現行は光村図書を使用している中、検討委員会で1番の推薦となったのは三省堂、次点に開隆堂、光村図書という状況である。私も全ての教科書を読んだところ、コミュニケーションを扱う教科だからこそだと思うが、各社ともデジタルコンテンツに力が入っていると感じた。その中で、英語担当指導主事の説明にあった通り、デジタルコンテンツにおいては三省堂が一步抜き出ており、より総合的な教材として見たときに優れたものを持っていると感じた。

下平委員

4年前の採択の際も、私は光村図書を強烈に推したことを覚えている。日本人が特に弱いコミュニケーションの部分非常重视に扱っていて、随所に「言葉で人とつながるために」として、「Smile、Eye Contact、Clear Voice、Response」と繰り返し取り上げられている。また、巻末に「学び方ガイド」として基本的な文例が分かりやすくまとめられている。英語に苦手意識を持ちやすい子どもでも非常に親しみやすく、分かりやすく使っていけると思う。以上の理由から、前回と同様に光村図書を推したいと思う。タイトルの「Here We Go!」も、生き生きしていて良いと感じる点である。他には、丸にはなっていないが、東京書籍のNEW HORIZONが非常に特徴的であり、実用的であると思った。海外にすぐ行く人、留学する人向けに作られているのかと思うような内容であり、他の教科書と明らかに異なり、道案内、レストランでの注文の仕方、病院で具合が悪くなったときの対応等、具体的なケースを取

り上げていて、非常に実用性に優れた教科書であると印象に残っている。三省堂もとても素晴らしい教科書であると思うが、今まで光村図書であった中で今回は三省堂が1番の推薦となったのは、具体的にどういった点が特に優れていたのか伺いたい。

英語担当指導主事

現行使っている教科書が劣っているという訳ではなく、学習者の視点という観点を最大に重視した結果、三省堂が1番の推薦となった。教員の授業のしやすさという観点もあるが、鎌倉としての個別最適な学び、協働的な学びを通して深い学びを追究していくにあたり、トータル的に考えた際に三省堂のNEW CROWNが一步抜き出ているとの意見が全会一致であった。

林委員

今の話にあった、良い点を具体的に伺いたい。

英語担当指導主事

デジタルコンテンツが大変充実している点が一つである。加えて、三省堂には唯一発音チェック機能があることも理由である。この場で実演したいと思うが、まずは文章の発音を聞ける機能について実演する。＜発音実例の再生＞。これは教科書の本文の一文であるが、最大200語までオリジナルの例文を入れて発音を聞き練習することができる。次に自分が発音する方法について実演する。＜発音の実例＞このように、自分が何を発音したかがわかり、再生しなおすこともできる。見本と自分の発音を客観的に聞き直し、繰り返す中でまさに言葉を自分のものにしていくという仕組みとなっている。これは大変有効であり、自学自習に大変活用できると考えている。

下平委員

確認になるが、自分の作った英文も発音してもらえるのか。

英語担当指導主事

最大200語までであるが、発音をしてくれる。

下平委員

発音が苦手な教員もいると思われるので、素晴らしいと感じた。それと三省堂は辞書機能も充実していると聞いたが、どのようなものか伺いたい。

英語担当指導主事

三省堂の辞書として市販されているNEW CROWN一冊分の情報が入っている。教科書の本文の中で単語を選ぶと辞書機能が働き、例文、発音、使い方、発音記号等の辞書機能が有効に活用できるようになっている。この機能も導入しているのは三省堂のみである。

長尾委員

質問だが、4年前の採択の際にこの技術は搭載されていなかったということか。

英語担当指導主事

これは全社に言えることだが、4年前の採択の際にはQRコード自体がそれほど活用されていなかった。去年の小学校の教科書採択も同じことが言えるが、ここ数年間で色々と工夫がされてきている。その中においても、やはり会社によって活用の程度に相当差があり、三省堂は4年前とは比べ物にはならないほどの進化を遂げている状況である。また数年後は変わった形になると思う。

長尾委員

デジタルコンテンツについては三省堂が一步進んでいると理解した。取り扱っている題材については、検討委員会の中で秀でている点があったか伺いたい。

英語担当指導主事

今回3社が推薦されているが、中身については特徴がある。SDGsを意識している教科書や多様性を意識している教科書があり、題材・テーマに関していえば、より自分たちの日頃の生活をピックアップしたものもある。イラストも含めてそれぞれ特徴があるので、内容によってここが素晴らしいということではなく、それぞれ特徴的で興味深かったという意見であった。

長尾委員

私も三省堂を推したいと思っているが、現場の教員についてはどのような意見があったか伺いたい。

英語担当指導主事

学校の調査については現行使用していることもあり、順位に関しては光村図書が1位であったが、もし他者の教科書が選定された場合であっても、具体的なデジタルコンテンツの使用方法をしっかりと周知し、教員の不安が払拭していきたいと考えている。

朝比奈委員

4年間で物凄くテクノロジーが発展し、本当に素晴らしい機能ができたと思う。使う方の環境も4年前と比べてかなり整っており、教員もデジタルコンテンツに慣れてきているので、私は是非この三省堂の発音チェックや辞書機能を活用してもらいたいと思う。私の中学時代に、教員がカセットテープで発音を聞かせてくれたことを考えると、どれほど環境が優れているかを感じる。こういった機能を用いて英語に親しみ、鎌倉に観光に来る海外の方にも少し声をかけて案内してあげられるぐらいの英語力を身につけて欲しいと思う。

林委員

先日テレビで、黒柳徹子氏の小学校の時の教員が、「教育は20年先を見て行うものだ」という言葉を常に言われていたと聞いた。教科書採択にあたり、その言葉がとても頭に残っている。今色々とデジタ

ルが進化している中では、20年先どころか5年先でもう違うのだろうと感じる。「デジタルがあるから英語は勉強しなくて良い」とはせず、やはり自分自身が話せるようになり、対面しながら外国の人たちと対話ができることが本当の理想だと思う。その手助けとして、こういったコンテンツがあることは非常にありがたく、是非活用していきたいと思っている。三省堂でもう一つ心から楽しくて面白かったところがある。2年生の96ページに前置詞について載っているが、忍者が箱の中に入っていたら「in」、乗っかっていたら「out」、少し先にいたら「at」等、忍者の立ち位置で前置詞が変わるのである。自分が勉強している時は前置詞の差が良く分からなかったが、例えば「to」、「for」のどちらを使うのかというときに、このページを見たら子どもたちも理解できるようになっている。デジタルではない秀逸なページだと感じた。他の教科書について、開隆堂は、最初に「Get Ready」といって絵が描いてあり、ここで小学校の時に習った英語で色々質問したり答えたりするのかと思うが、工夫がされていると感じる。また、QRコードを用いて発音を聴く際に、アルファベットの発音をしてから言葉の発音をするようになっていて、非常にテンポが良く聴きやすかったのが印象に残っている。教育出版は、丸がついていないが、2年生130ページで日本文化の紹介が英語で書いてあり、こういった内容も非常に役に立つと思う。現在使用中の光村図書は、光村図書の英語は秀逸だと大学の英語の教員が言う程であり、ユニットに入る前のページが非常に充実している。学習先行型であり、教師も使いやすいというものである。先ほど話した「20年先を見る」ということを考えると、三省堂の取り組みが推薦に値すると思っている。

高橋教育長

この英語の議論は、今日全体を象徴するようなものであった。まさに学習者中心、個別最適、協働的な学びの観点から捉えた場合、こういった教科書が必要なのかということでの議論であったと思う。検討委員会の議論でも、そのような視点から教員に考え議論してもらった。林委員から話があったように、未来志向の取り組みを考えると、やはり一歩踏み出した採択の結果が多かったと感じている。そういう中で、三省堂には、辞書機能、アニメーション動画、フラッシュカード、文法解説、先ほど実演の合った発音のチェック機能等の様々な機能がある。学習者に寄り添い、個別最適に学習者自身が一步步歩いていけるような総合的なコンテンツであると思った。リスニングタスクから始まり、言語を習得していくプロセスが丁寧に構成されている点も高く評価できる。もちろん開隆堂、光村図書、その他の教科書もそういった点が無い訳ではないが、コミュニケーションの中での物事の捉え方やコミュニケーションを図る資質能力を育成する観点でふさわしい教科書を選ぶとなると、私も三省堂がふさわしいと思っている。生成AIがこれだけ進歩しており、英語という言語は特に翻訳や音声認識について無料のツールが山ほどある状態である。大人の英語学習もそれらを活用して学習していく時代とはいえ、この教科書採択は中学生に向けてのものなので、やはり中学生向けのしっかりとしたコンテンツの中で、様々な試し、トライできる工夫が三省堂の教科書にはあると思う。中学生の習熟度や発達段階に応じた工夫がされている辞書や発音の捉え方を見ると、教科書会社として中学生にいかに関心を持っていたかという熱意が感じられる。技術的には物凄いものではないかもしれないが、特に中学生の発達段階に応じた機能が満載である点は高く評価したいと思っている。現在使用している光村図書が悪い訳では決していないが、より学習者中心の視点を前に進めるため、英語は三省堂を選定したいと思うがいかがか。

(異議なし)

高橋教育長

それでは英語は三省堂を選定する。

以上で全種目について協議を終了する。ただいまの協議結果をもとに事務局が資料作成を行った後、議案第14号の審議に移りたいと思う。それでは事務局資料作成のために15分程休憩とする。

<休憩>

2 議案第14号 令和7年度(2025年度)使用小学校及び中学校教科用図書の採択について

高橋教育長

準備が整ったようなので再開する。日程2、議案第14号「令和7年度(2025年度)使用小学校及び中学校教科用図書の採択について」、議案の説明を願いたい。

事務局

それでは議案第14号「令和7年度(2025年度)使用小学校及び中学校教科用図書の採択について」内容を説明する。令和7年度(2025年度)使用小学校教科用図書については4月の定例教育委員会において令和7年度(2025年度)使用教科用図書の採択方針を議決いただいた中で、令和5年度(2023年度)に採択した教科用図書と同一のものを採択することとなっていることから、「令和7年度(2025年度)使用小学校教科用図書(案)」の通り提案するものである。また令和7年度(2025年度)使用中学校教科用図書については先ほど種目ごとに選定してもらったところであり、その内容を一覧表にまとめたものが「令和7年度(2025年度)使用中学校教科用図書一覧(案)」である。表のとおり10教科16種目の中学校教科用図書を採択するものとして提案する。

高橋教育長

先ほどの議論が資料にも反映されていることを確認した。ただいまの事務局からの説明に対する質問、意見等あるか。

(質問・意見)

特になし

(採決の結果、議案第14号は原案どおり可決された)

高橋教育長

それでは日程の3については非公開となるので、傍聴者及び関係職員以外の職員は退席願いたい。

3 協議事項 教育委員会事務局職員への兼務発令について

高橋教育長

以上で、本日の日程は全て終了した。これをもって8月臨時会を閉会する。